

医療費の動向 令和2年度4月～3月

- 令和2年度4月～3月の医療費の伸び（対前年同月比、以下同じ）を見ると、4月に▲8.8%、5月に▲11.9%と10%程度の減少となり、6月以降はゆるやかな回復傾向であったが、1月、2月は減少幅が拡大。3月は5.5%とプラスになった。
- 診療種類別では、3月は全ての診療種類がプラス。入院外、歯科が10%程度の大きい伸び。
- これまで大きく減少していた未就学者、医科診療所の小児科や耳鼻咽喉科もプラスとなった。都道府県間のばらつきは2月と同程度。

（参考）診療種類別 医療費の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(3月対前々年)
総計	-8.8	-11.9	-2.4	-4.5	-3.5	-0.3	1.5	-3.8	-1.9	-4.7	-4.4	5.5	(4.3)
入院	-6.5	-10.1	-4.0	-4.3	-3.0	-0.2	1.0	-2.3	-2.6	-4.3	-5.6	1.1	(1.8)
入院外	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7	-1.0	0.4	-5.8	-2.9	-6.6	-3.9	10.0	(5.4)
歯科	-15.3	-15.8	-0.2	-4.0	0.9	5.0	9.6	-1.0	3.2	-1.9	-0.5	9.8	(6.6)
調剤	-3.1	-8.7	0.1	-3.6	-5.3	-1.7	1.1	-5.6	-1.4	-4.3	-4.9	4.6	(5.2)

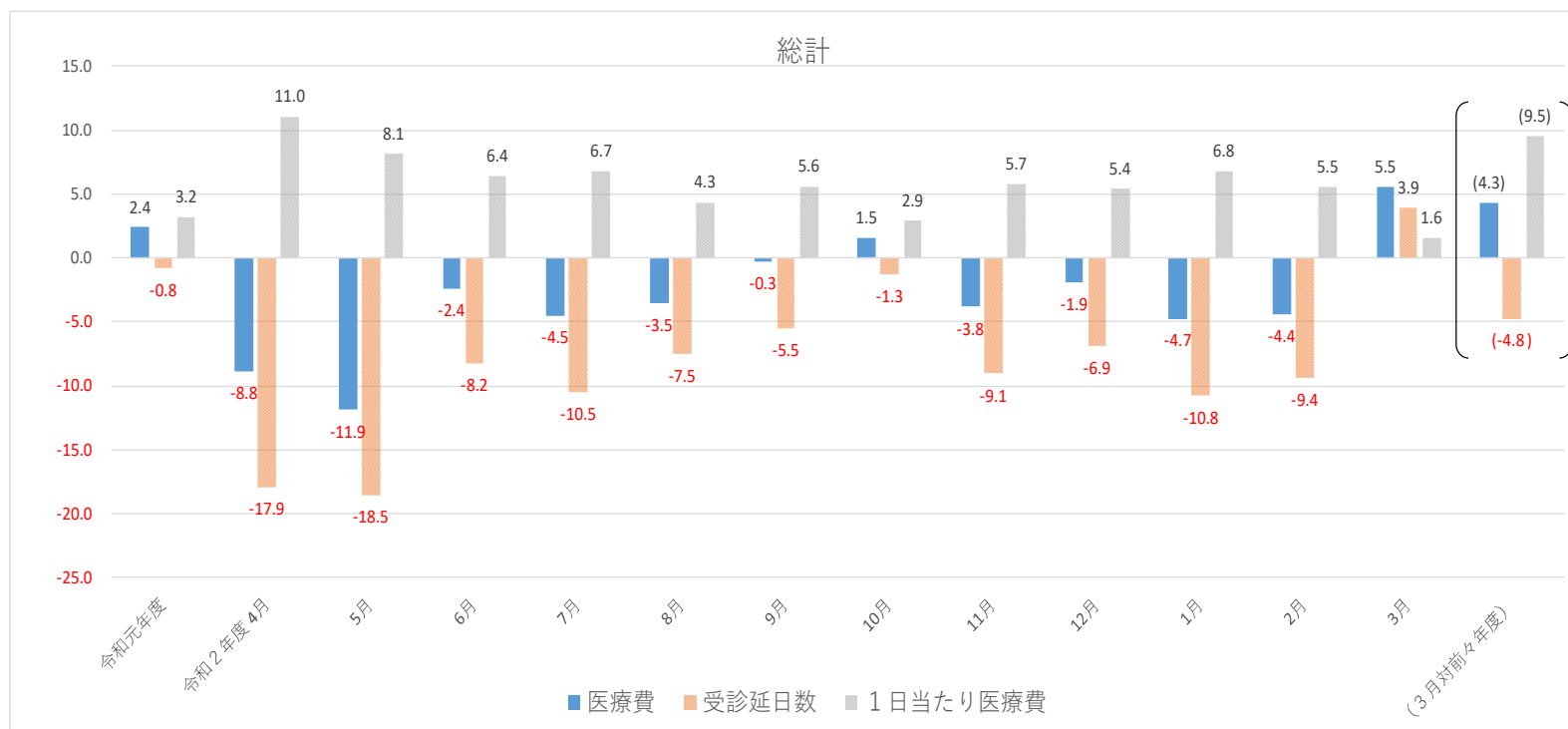
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ①概算医療費

- 令和2年度4月～3月の医療費の伸び（対前年同月比、以下同じ）を見ると、4月に▲8.8%、5月に▲11.9%と10%程度の減少となったが、6月以降、緩やかな回復傾向であったが、1月、2月は減少幅が拡大。3月は5.5%とプラスとなった。
- 受診延日数の伸びは4月～5月は▲18～19%程度減少、6月～8月は▲7～10%で推移し、9月は▲5.5%、10月は▲1.3%と減少幅は小さくなったが、11月以降は▲6～▲11%で推移するも、3月は3.9%とプラスに転じた。（対前々年度で見ると、▲4.8%）
- 1日当たり医療費の伸びは4月～3月を通じてプラスで推移。3月は増加幅が小さくなった。（対前々年度で見ると、9.5%の増）

■ 総計の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医療費	2.4	-8.8	-11.9	-2.4	-4.5	-3.5	-0.3	1.5	-3.8	-1.9	-4.7	-4.4	5.5	(4.3)
受診延日数	-0.8	-17.9	-18.5	-8.2	-10.5	-7.5	-5.5	-1.3	-9.1	-6.9	-10.8	-9.4	3.9	(-4.8)
1日当たり医療費	3.2	11.0	8.1	6.4	6.7	4.3	5.6	2.9	5.7	5.4	6.8	5.5	1.6	(9.5)



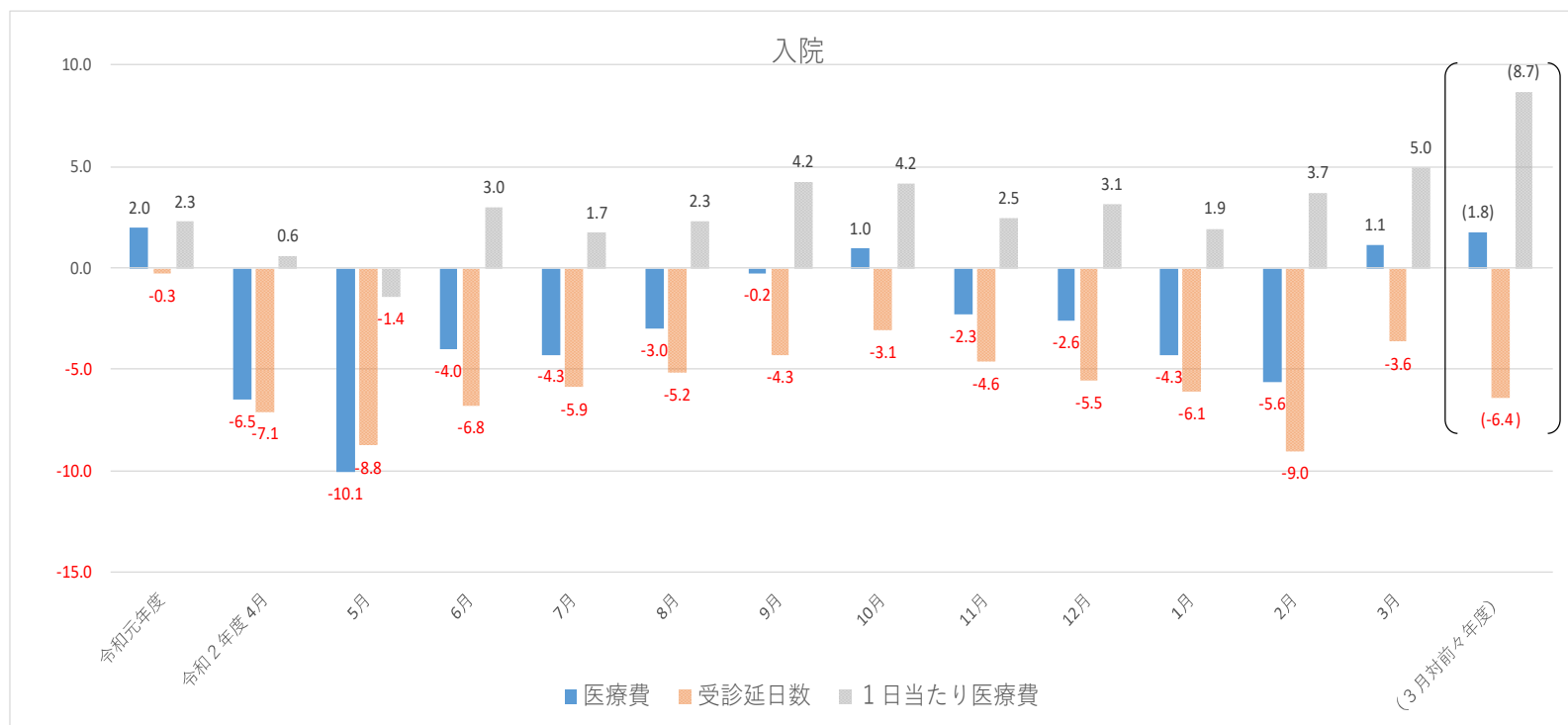
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ②－1 診療種別（入院）

- 入院医療費の伸び率は、1月、2月は減少幅が大きくなり、▲4.3%、▲5.6%となったが、3月は1.1%とプラスに転じた。
- 受診延日数の伸びは7月以降は▲3～6%程度で推移していたが、2月に▲9.0%と大きく減少。3月は▲3.6%と減少幅は小さくなった。
- 1日当たり医療費は5月のみ減少し、その後は+2～5%程度で推移。

■ 入院の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医療費	2.0	-6.5	-10.1	-4.0	-4.3	-3.0	-0.2	1.0	-2.3	-2.6	-4.3	-5.6	1.1	(1.8)
受診延日数	-0.3	-7.1	-8.8	-6.8	-5.9	-5.2	-4.3	-3.1	-4.6	-5.5	-6.1	-9.0	-3.6	(-6.4)
1日当たり医療費	2.3	0.6	-1.4	3.0	1.7	2.3	4.2	4.2	2.5	3.1	1.9	3.7	5.0	(8.7)



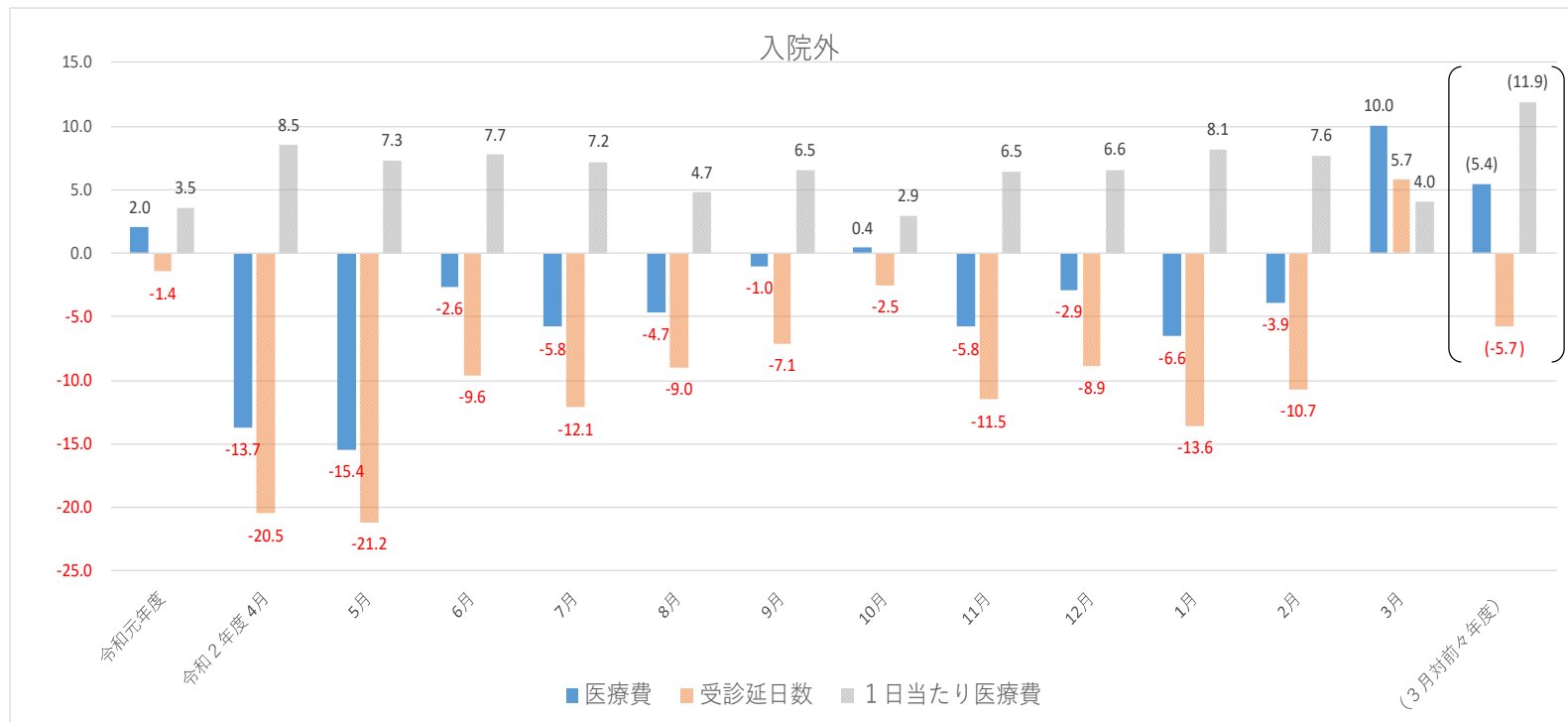
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ②－2 診療種別（入院外）

- 入院外医療費の伸び率は、1月は▲6.6%と減少幅が拡大するも、2月には▲3.9%と減少幅は縮小し、3月には10%と大きくプラス。
- 受診延日数について、1月は▲13.6%と減少幅が拡大するも、2月には▲10.7%と減少幅は縮小し、3月には5.7%とプラスに転じた。（対前々年度では▲5.7%とマイナス。）
- 1日当たり医療費は4月～2月を通じてプラスで推移。

■ 入院外の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医療費	2.0	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7	-1.0	0.4	-5.8	-2.9	-6.6	-3.9	10.0	(5.4)
受診延日数	-1.4	-20.5	-21.2	-9.6	-12.1	-9.0	-7.1	-2.5	-11.5	-8.9	-13.6	-10.7	5.7	(-5.7)
1日当たり医療費	3.5	8.5	7.3	7.7	7.2	4.7	6.5	2.9	6.5	6.6	8.1	7.6	4.0	(11.9)



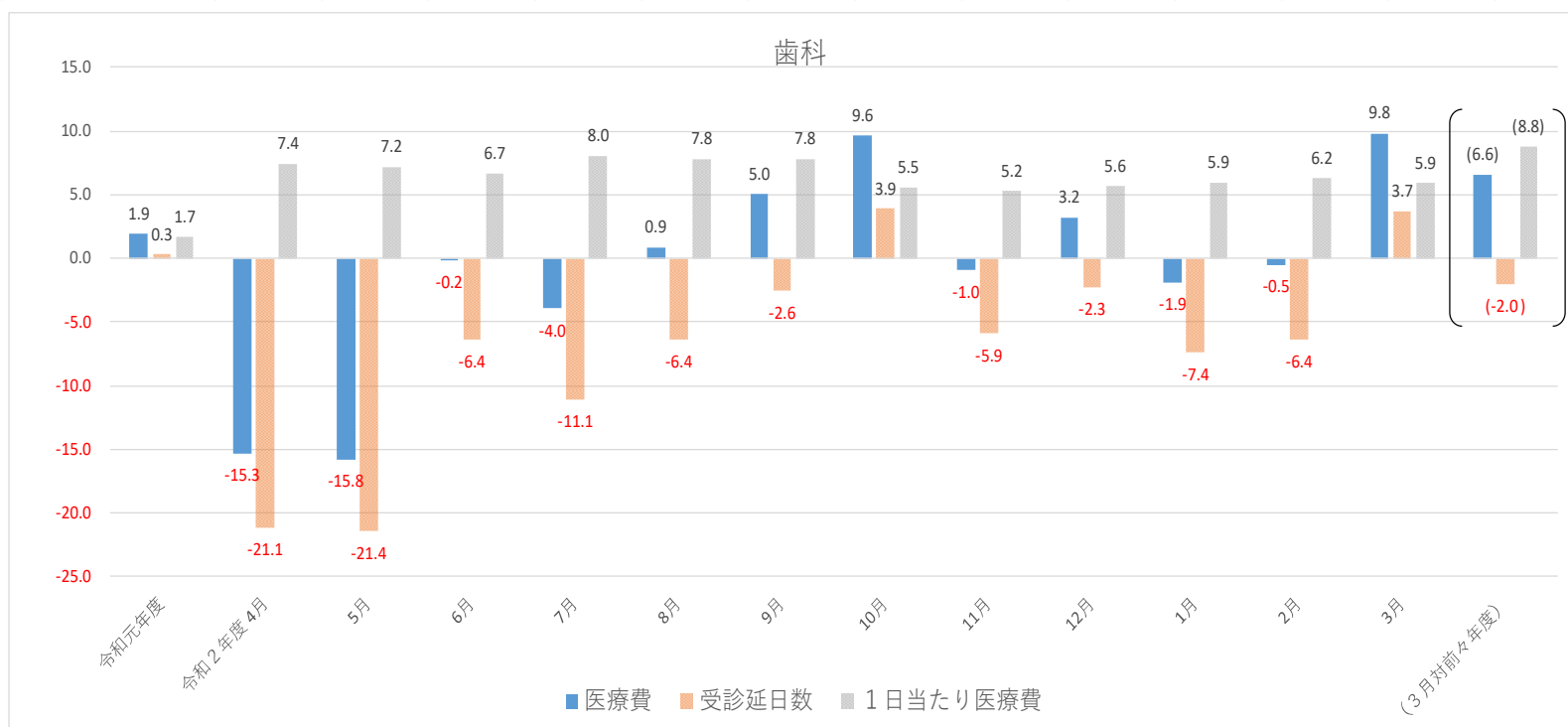
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ②－3 診療種別（歯科）

- 歯科医療費の伸び率は、1月、2月はマイナスとなっていたが、3月には再びプラスとなった。
- 受診延日数は、10月を除きマイナスで推移していたが、3月にはプラスとなった。（対前々年度では▲2.0%のマイナス。）
- 1日当たり医療費は4月～3月を通じて+5～8%程度の増加。

■ 歯科の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医療費	1.9	-15.3	-15.8	-0.2	-4.0	0.9	5.0	9.6	-1.0	3.2	-1.9	-0.5	9.8	(6.6)
受診延日数	0.3	-21.1	-21.4	-6.4	-11.1	-6.4	-2.6	3.9	-5.9	-2.3	-7.4	-6.4	3.7	(-2.0)
1日当たり医療費	1.7	7.4	7.2	6.7	8.0	7.8	7.8	5.5	5.2	5.6	5.9	6.2	5.9	(8.8)



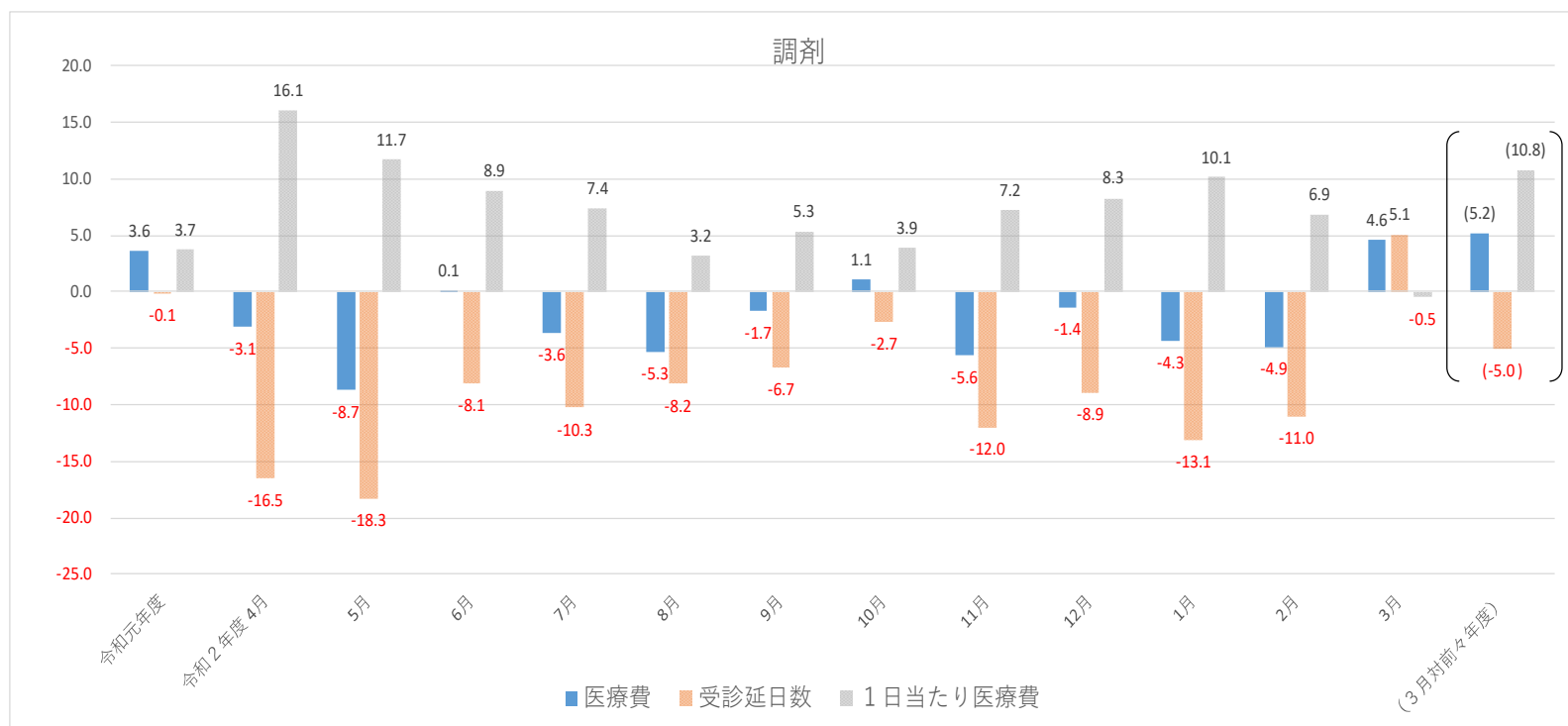
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ②－4 診療種別（調剤）

- 調剤医療費の伸び率について、1月、2月は減少幅が大きくなったが、3月はプラスに転じた。
- 受診延日数は2月までマイナスで推移するも、3月にプラスとなった。（対前々年度では▲5.0%のマイナス。）
- 1日当たり医療費は4月に+16.1%と大きな伸びとなるなど、プラスで推移していたが、3月にはマイナスとなった。

■ 調剤の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医療費	3.6	-3.1	-8.7	0.1	-3.6	-5.3	-1.7	1.1	-5.6	-1.4	-4.3	-4.9	4.6	(5.2)
受診延日数 ※	-0.1	-16.5	-18.3	-8.1	-10.3	-8.2	-6.7	-2.7	-12.0	-8.9	-13.1	-11.0	5.1	(-5.0)
1日当たり医療費	3.7	16.1	11.7	8.9	7.4	3.2	5.3	3.9	7.2	8.3	10.1	6.9	-0.5	(10.8)



※受診延日数は「処方せん枚数（受付回数）」を集計したもの

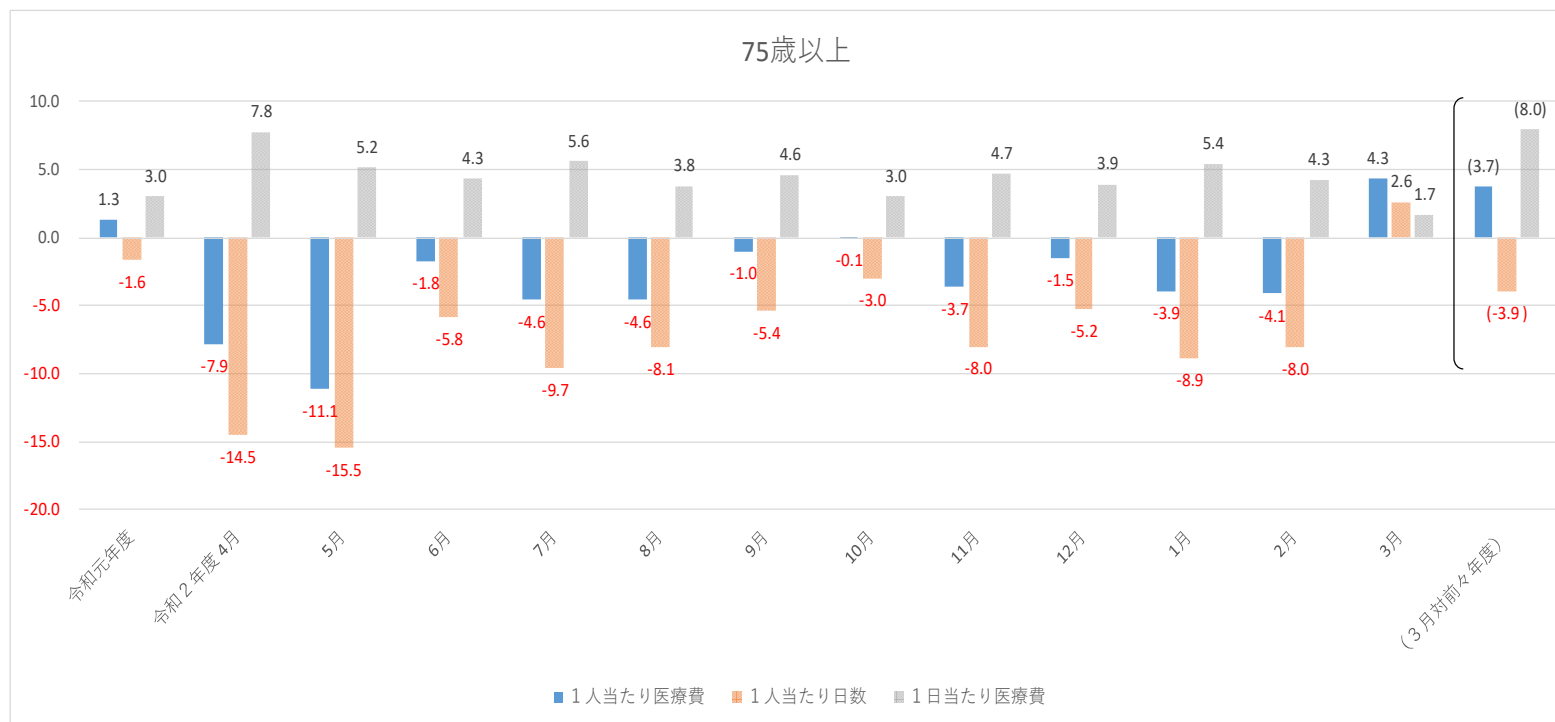
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ③－1 75歳以上の状況

- 75歳以上について、1人当たり医療費、1人当たり日数は2月までマイナスで推移していたが、3月にプラスに転じた。
(対前々年度で見ると、1人当たり日数は▲3,9%のマイナス。)
- 1日当たり医療費の伸び率は小さくなった。

■ 75歳以上の医療費の伸び率（対前年同期比）

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年度)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1人当たり医療費	1.3	-7.9	-11.1	-1.8	-4.6	-4.6	-1.0	-0.1	-3.7	-1.5	-3.9	-4.1	4.3	(3.7)
1人当たり日数	-1.6	-14.5	-15.5	-5.8	-9.7	-8.1	-5.4	-3.0	-8.0	-5.2	-8.9	-8.0	2.6	(-3.9)
1日当たり医療費	3.0	7.8	5.2	4.3	5.6	3.8	4.6	3.0	4.7	3.9	5.4	4.3	1.7	(8.0)



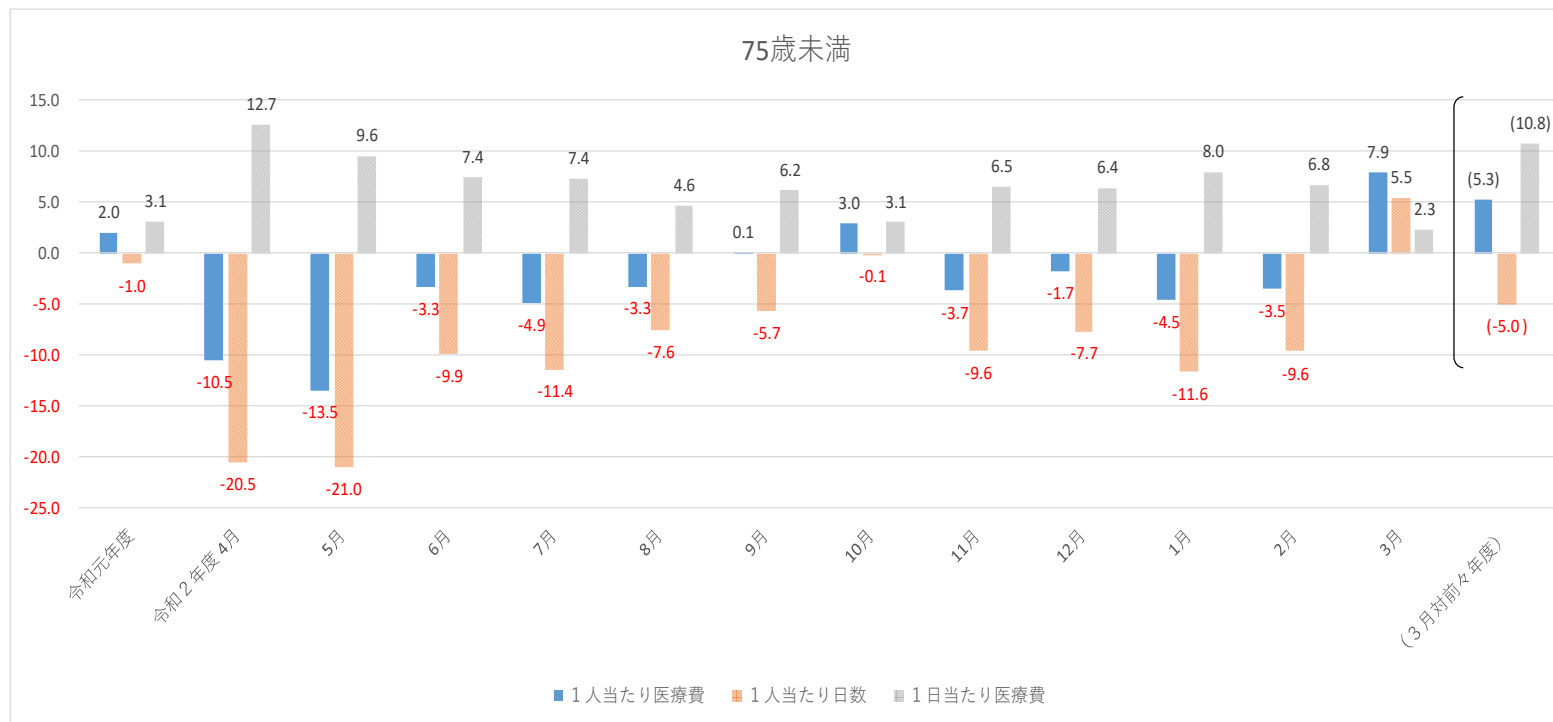
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ③－2 75歳未満の状況

- 75歳未満について、3月は、1人当たり医療費、1人当たり日数、1日当たり医療費全ての項目でプラスとなった。
(対前々年度で見ると、1人当たり日数は▲5.0%のマイナス。)

■ 75歳未満の医療費の伸び率（対前年同期比）

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年度)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1人当たり医療費	2.0	-10.5	-13.5	-3.3	-4.9	-3.3	0.1	3.0	-3.7	-1.7	-4.5	-3.5	7.9	(5.3)
1人当たり日数	-1.0	-20.5	-21.0	-9.9	-11.4	-7.6	-5.7	-0.1	-9.6	-7.7	-11.6	-9.6	5.5	(-5.0)
1日当たり医療費	3.1	12.7	9.6	7.4	7.4	4.6	6.2	3.1	6.5	6.4	8.0	6.8	2.3	(10.8)



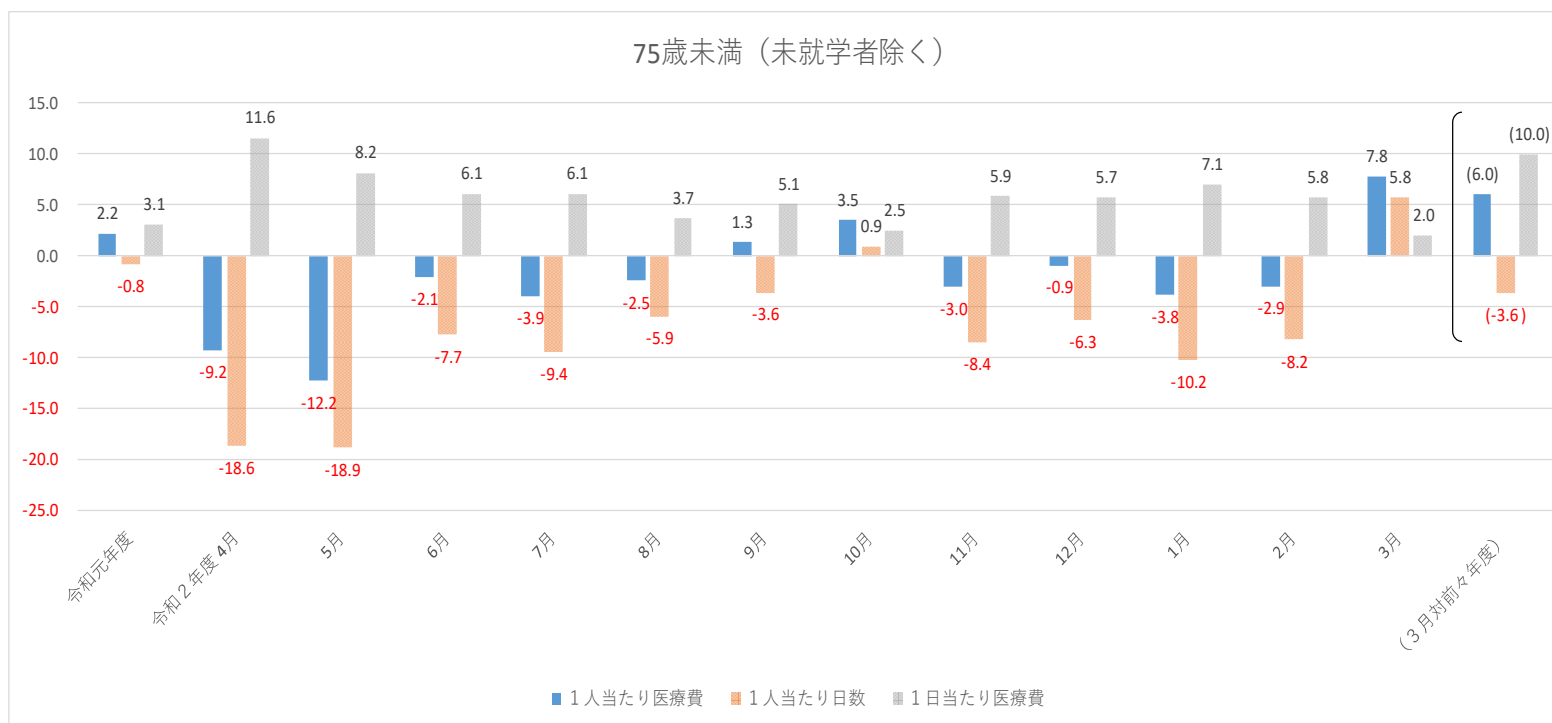
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ③ - 3 75歳未満（未就学者除く）の状況

- 未就学者を除くと、1日当たり医療費の増加幅は微減。1人当たり日数の増加幅は微増し、結果として1人当たり医療費の増加幅はわずかに大きくなった。

■75歳未満（未就学者除く）の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年度)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1人当たり医療費	2.2	-9.2	-12.2	-2.1	-3.9	-2.5	1.3	3.5	-3.0	-0.9	-3.8	-2.9	7.8	(6.0)
1人当たり日数	-0.8	-18.6	-18.9	-7.7	-9.4	-5.9	-3.6	0.9	-8.4	-6.3	-10.2	-8.2	5.8	(-3.6)
1日当たり医療費	3.1	11.6	8.2	6.1	6.1	3.7	5.1	2.5	5.9	5.7	7.1	5.8	2.0	(10.0)



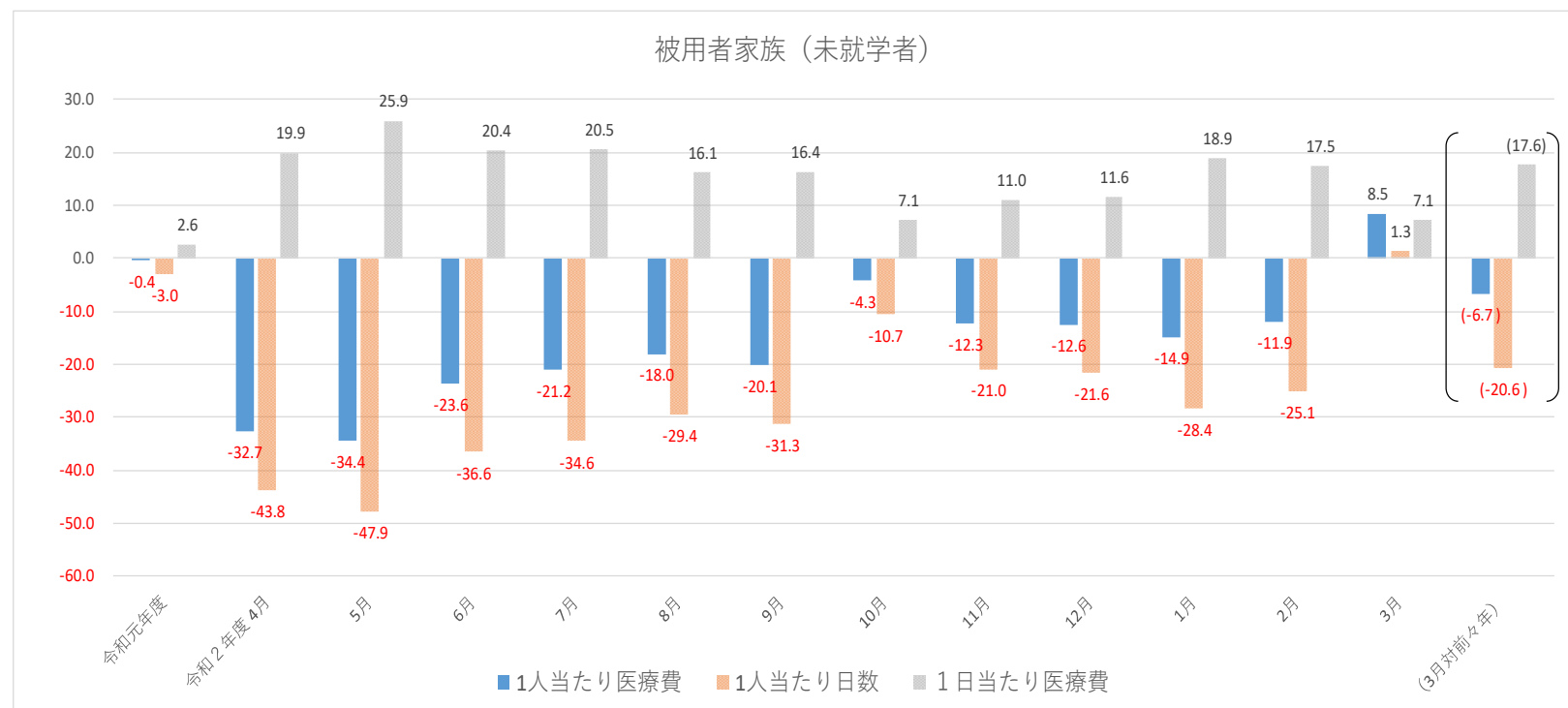
医療費の動向 令和2年度4月～3月 ③－4 未就学者の状況

- 未就学者について、1人当たり医療費はこれまで大きく減少していたが、3月にプラスに転じた。1人当たり日数もプラスに転じている。(対前々年度で見ると、1人当たり日数は▲20.6%と大きなマイナスとなり、1人当たり医療費も▲6.7%のマイナス。)

■ 被用者家族（未就学者）の伸び率（対前年同月比）

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1人当たり医療費	-0.4	-32.7	-34.4	-23.6	-21.2	-18.0	-20.1	-4.3	-12.3	-12.6	-14.9	-11.9	8.5	(-6.7)
1人当たり日数	-3.0	-43.8	-47.9	-36.6	-34.6	-29.4	-31.3	-10.7	-21.0	-21.6	-28.4	-25.1	1.3	(-20.6)
1日当たり医療費	2.6	19.9	25.9	20.4	20.5	16.1	16.4	7.1	11.0	11.6	18.9	17.5	7.1	(17.6)



医療費の動向 令和2年度4月～3月 ④診療科別の状況

○ 入院外について、医科診療所の主たる診療科別の医療費の伸び率を見ると3月は外科以外の診療科はプラスとなった。これまで特に減少幅の大きかった、小児科・耳鼻咽喉科の増加幅が20%程度と大きい。
(対前々年度で見ると、小児科、耳鼻咽喉科ともにマイナスとなる。)

■ 伸び率 (対前年同月比)

(単位：%)

		令和元年度	令和2年度												(3月対前々年度)
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医療費	医科診療所	0.8	▲16.3	▲15.7	▲4.2	▲6.8	▲4.2	▲2.8	1.3	▲7.3	▲4.7	▲8.2	▲5.1	10.0	(1.2)
	内科	0.4	▲11.6	▲12.1	▲2.4	▲4.9	▲3.6	▲1.4	0.2	▲6.6	▲4.9	▲7.6	▲4.6	8.0	(2.0)
	小児科	0.1	▲38.4	▲44.9	▲31.9	▲26.8	▲21.8	▲26.6	▲7.5	▲19.5	▲23.4	▲26.8	▲17.8	24.4	(-3.4)
	外科	▲1.3	▲18.5	▲17.2	▲7.7	▲12.3	▲11.5	▲10.5	▲7.5	▲15.0	▲11.8	▲15.7	▲14.2	▲1.8	(-12.3)
	整形外科	1.8	▲18.3	▲14.9	▲1.6	▲6.7	▲3.1	▲0.7	3.4	▲3.5	0.1	▲5.5	▲2.4	12.8	(5.7)
	皮膚科	1.9	▲15.2	▲6.0	6.2	▲5.4	2.5	0.5	8.4	▲4.0	3.9	▲2.8	▲3.1	5.1	(2.4)
	産婦人科	1.4	▲14.9	▲11.9	▲0.1	▲2.7	1.6	2.8	8.4	▲1.8	2.7	▲0.2	1.7	13.6	(8.6)
	眼科	2.3	▲19.7	▲21.4	▲2.0	▲4.9	0.3	▲0.0	7.7	▲4.9	▲0.3	▲5.3	▲3.0	14.5	(5.7)
	耳鼻咽喉科	▲2.7	▲42.6	▲40.1	▲28.5	▲21.9	▲17.2	▲18.2	▲6.1	▲23.1	▲18.6	▲23.1	▲12.8	17.9	(-18.5)
その他	2.3	▲11.1	▲10.0	0.5	▲3.3	▲1.9	2.2	4.1	▲3.5	0.4	▲3.1	▲1.7	9.6	(6.5)	
受診延日数	医科診療所	▲1.3	▲21.0	▲20.4	▲10.0	▲12.3	▲8.0	▲7.5	▲1.5	▲11.9	▲9.3	▲13.9	▲11.1	5.9	(-6.8)
	内科	▲1.7	▲15.6	▲18.0	▲8.8	▲11.0	▲8.3	▲6.4	▲3.6	▲13.3	▲11.6	▲15.4	▲12.2	3.3	(-6.3)
	小児科	▲2.2	▲42.8	▲51.1	▲40.1	▲35.3	▲30.3	▲35.1	▲14.1	▲26.6	▲32.2	▲38.8	▲31.9	6.2	(-21.1)
	外科	▲4.6	▲21.3	▲20.3	▲11.6	▲16.6	▲13.7	▲13.4	▲9.4	▲18.6	▲15.4	▲20.6	▲18.7	▲4.7	(-18.5)
	整形外科	▲1.0	▲22.7	▲19.1	▲6.8	▲11.8	▲6.4	▲4.1	2.3	▲6.0	▲2.0	▲8.8	▲5.1	11.6	(0.5)
	皮膚科	1.2	▲14.2	▲5.1	5.6	▲5.7	2.4	0.3	8.6	▲3.4	4.1	▲2.9	▲4.2	3.2	(0.7)
	産婦人科	0.8	▲15.9	▲13.8	▲4.2	▲6.7	▲2.7	▲1.1	3.7	▲5.6	▲1.5	▲4.7	▲3.6	9.0	(2.8)
	眼科	▲1.3	▲25.8	▲24.0	▲7.5	▲7.0	▲3.2	▲5.6	5.5	▲7.4	▲4.5	▲8.1	▲7.0	8.4	(-5.1)
	耳鼻咽喉科	▲4.3	▲42.3	▲41.5	▲33.8	▲26.7	▲21.6	▲23.2	▲10.7	▲26.6	▲23.0	▲28.5	▲20.9	6.8	(-26.0)
その他	1.4	▲11.2	▲10.5	▲1.8	▲5.5	▲3.2	0.5	3.2	▲5.6	▲1.3	▲4.8	▲3.9	8.0	(3.5)	
1日当たり医療費	医科診療所	2.1	6.0	5.9	6.4	6.2	4.2	5.1	2.8	5.3	5.2	6.6	6.7	3.9	(8.6)
	内科	2.1	4.8	7.1	7.0	6.9	5.0	5.3	4.0	7.8	7.6	9.1	8.6	4.5	(9.0)
	小児科	2.3	7.8	12.6	13.6	13.1	12.2	13.1	7.8	9.6	12.9	19.6	20.7	17.2	(22.4)
	外科	3.5	3.6	3.8	4.3	5.2	2.5	3.4	2.1	4.3	4.3	6.2	5.5	3.0	(7.6)
	整形外科	2.8	5.7	5.1	5.5	5.8	3.5	3.6	1.1	2.6	2.2	3.6	2.8	1.1	(5.2)
	皮膚科	0.6	▲1.2	▲1.0	0.6	0.3	0.1	0.1	▲0.2	▲0.6	▲0.2	0.0	1.1	1.8	(1.7)
	産婦人科	0.6	1.2	2.3	4.3	4.4	4.4	3.9	4.5	4.1	4.3	4.7	5.5	4.2	(5.6)
	眼科	3.6	8.1	3.4	5.9	2.2	3.6	5.9	2.1	2.7	4.4	3.1	4.3	5.6	(11.5)
	耳鼻咽喉科	1.7	▲0.6	2.4	8.0	6.5	5.7	6.4	5.2	4.8	5.7	7.5	10.3	10.3	(10.1)
その他	0.8	0.1	0.5	2.3	2.3	1.3	1.6	0.9	2.3	1.8	1.8	2.3	1.5	(2.9)	

医療費の動向 令和2年度4月～3月 ⑤都道府県別の状況

- 都道府県別に入院外の医療費の伸び率を見ると、全ての都道府県でプラスとなり、データの散らばりの度合いを表す分散は3月には大きくなった。(対前々年度で見ると、分散は小さくなる。)

■ 入院外医療費の伸び率 (対前年同月比)

(単位：%)

	医療費												
	令和元年度	令和2年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全国	2.0	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7	-1.0	0.4	-5.8	-2.9	-6.6	-3.9	10.0
北海道	2.2	-10.9	-15.5	-0.4	-4.4	-5.3	0.1	-0.8	-7.0	-5.4	-7.3	-3.9	13.5
青森県	1.2	-8.7	-11.8	0.2	-5.3	-5.4	-1.2	-2.5	-8.6	-4.3	-8.2	-6.2	4.0
岩手県	0.9	-6.5	-10.9	0.2	-6.1	-4.2	1.1	0.3	-7.1	-4.5	-8.1	-5.1	5.7
宮城県	1.7	-11.0	-14.3	-0.9	-6.5	-4.2	-1.2	0.2	-5.8	-3.8	-5.3	-5.0	9.1
秋田県	1.2	-8.5	-10.7	1.1	-5.5	-4.7	-0.4	-0.7	-5.5	-3.3	-11.1	-7.0	6.5
山形県	0.8	-12.5	-15.3	0.1	-6.7	-5.0	-0.4	-0.7	-6.7	-4.3	-7.7	-6.1	4.6
福島県	0.9	-9.6	-14.8	-2.6	-6.2	-5.2	-2.1	0.8	-6.5	-3.2	-6.2	-6.2	6.6
茨城県	1.6	-14.1	-14.9	-2.2	-5.3	-4.9	-1.1	1.3	-5.8	-3.0	-5.7	-3.1	9.2
栃木県	2.5	-10.8	-14.4	-3.2	-6.8	-6.2	-3.1	-1.2	-7.9	-4.2	-8.1	-6.3	7.7
群馬県	1.6	-12.3	-14.5	-3.1	-6.4	-5.8	-1.1	-0.4	-5.9	-2.6	-5.7	-4.9	9.7
埼玉県	2.6	-16.3	-16.0	-3.6	-5.4	-3.8	0.2	3.0	-4.6	-1.0	-3.7	-3.3	12.1
千葉県	2.2	-15.5	-16.6	-4.3	-5.5	-4.3	0.9	2.4	-4.5	-1.7	-5.0	-3.4	11.9
東京都	2.9	-20.9	-19.5	-5.0	-6.3	-4.4	0.0	1.9	-4.7	-1.7	-4.5	-3.5	12.9
神奈川県	2.4	-16.9	-17.5	-5.0	-6.1	-4.1	0.1	1.9	-4.8	-1.6	-3.4	-2.2	13.8
新潟県	1.2	-8.9	-13.2	0.5	-6.6	-5.5	-1.3	-2.4	-8.0	-5.3	-11.9	-7.3	6.7
富山県	1.8	-11.9	-17.2	-2.3	-5.6	-4.6	-1.2	-2.3	-7.0	-6.0	-12.5	-7.0	5.5
石川県	1.4	-15.1	-17.8	-2.6	-5.3	-5.5	-2.1	0.2	-7.0	-4.1	-8.5	-4.5	9.5
福井県	0.4	-17.7	-16.9	-1.2	-7.0	-6.1	-1.7	-1.3	-6.5	-3.5	-12.5	-5.3	7.6
山梨県	2.1	-13.0	-13.4	-1.3	-5.0	-5.1	-1.7	0.4	-5.7	-2.6	-4.4	-3.5	12.4
長野県	1.9	-10.3	-13.9	-0.1	-4.7	-4.0	-0.1	0.6	-5.9	-3.5	-7.8	-4.5	8.3
岐阜県	1.2	-14.4	-14.3	-2.1	-5.6	-5.1	-1.3	-0.3	-6.9	-4.4	-8.1	-4.9	8.7
静岡県	2.3	-8.3	-11.9	-0.3	-4.9	-3.8	0.1	1.5	-5.1	-2.1	-5.4	-2.5	9.5
愛知県	2.5	-12.2	-13.1	-1.3	-5.4	-4.4	-1.1	0.8	-5.8	-2.5	-6.8	-3.4	10.9
三重県	1.2	-12.3	-14.4	-2.0	-6.4	-6.0	-1.8	-0.4	-6.8	-4.3	-8.2	-4.7	6.4

(3月対前々年度)

(単位：%)

	医療費												
	令和元年度	令和2年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
滋賀県	2.3	-14.2	-15.8	-3.2	-5.7	-5.2	-1.8	0.7	-6.6	-4.5	-7.7	-3.0	10.0
京都府	1.8	-14.0	-15.9	-3.0	-6.1	-4.5	-0.8	-0.5	-6.1	-3.2	-7.0	-3.8	9.6
大阪府	2.1	-14.5	-15.9	-3.3	-5.9	-4.2	-1.3	0.0	-6.0	-3.2	-7.1	-3.9	10.2
兵庫県	2.1	-15.6	-16.7	-3.2	-6.1	-4.0	-0.9	0.0	-5.9	-3.1	-7.3	-3.8	11.2
奈良県	3.2	-11.1	-13.1	-2.3	-4.2	-4.0	0.1	0.8	-5.6	-2.2	-6.2	-2.6	9.2
和歌山県	0.9	-10.2	-11.8	-1.6	-5.9	-4.9	-2.0	-1.3	-7.0	-3.7	-7.8	-2.1	6.3
鳥取県	1.5	-7.6	-12.2	-1.7	-5.2	-4.3	-0.6	0.5	-5.8	-4.0	-8.2	-3.5	7.4
島根県	1.8	-7.5	-12.5	1.3	-5.5	-4.2	-1.5	-1.0	-6.7	-4.9	-8.2	-3.8	6.9
岡山県	2.1	-8.7	-14.2	-0.9	-5.5	-4.9	-1.5	-0.9	-5.9	-2.9	-8.5	-4.7	7.5
広島県	1.7	-10.8	-14.8	-1.8	-6.1	-3.8	-1.1	-0.7	-6.8	-4.0	-8.5	-4.5	7.3
山口県	0.6	-10.8	-14.2	-2.3	-6.1	-3.9	-1.8	-0.8	-7.5	-4.4	-7.9	-4.4	7.7
徳島県	1.3	-8.5	-10.4	-0.3	-6.1	-6.7	-2.7	-1.4	-7.6	-3.5	-8.0	-4.4	5.9
香川県	1.2	-10.9	-13.4	-1.2	-5.9	-5.4	-1.9	-0.8	-6.8	-2.3	-7.2	-1.9	8.3
愛媛県	2.0	-11.8	-14.3	-2.6	-6.1	-5.0	-2.3	-1.7	-6.8	-4.0	-9.3	-4.7	5.7
高知県	0.1	-12.5	-14.3	-1.1	-5.9	-5.0	-2.3	-1.4	-6.2	-4.4	-9.1	-3.7	6.9
福岡県	1.7	-16.0	-17.1	-4.6	-6.3	-4.5	-3.5	-0.3	-5.9	-3.0	-7.2	-3.4	9.3
佐賀県	2.5	-10.0	-12.5	0.6	-4.3	-1.0	-1.9	0.7	-4.8	-2.3	-6.7	-2.6	8.4
長崎県	1.1	-8.6	-12.4	-0.7	-7.5	-5.7	-3.7	-1.4	-6.6	-3.0	-10.3	-5.1	6.8
熊本県	1.0	-11.8	-14.4	-3.9	-7.1	-6.0	-5.2	-2.2	-7.8	-4.3	-8.1	-3.9	9.0
大分県	1.0	-12.2	-12.8	-0.5	-5.4	-8.7	-0.6	-1.4	-5.7	-3.2	-6.9	-4.0	9.9
宮崎県	2.0	-7.5	-9.5	1.2	-3.1	-6.4	-3.1	-0.9	-4.5	-2.9	-9.6	-3.8	6.9
鹿児島県	1.7	-7.2	-10.8	-0.2	-5.4	-5.1	-2.7	-0.3	-4.8	-0.9	-5.8	-3.5	6.7
沖縄県	4.2	-14.8	-19.1	-3.6	-6.4	-8.4	-7.1	0.3	-3.9	0.1	-3.7	-4.7	8.3
最大：	4.2	-6.5	-9.5	1.3	-3.1	-1.0	1.1	3.0	-3.9	0.1	-3.4	-1.9	13.8
最小：	0.1	-20.9	-19.5	-5.0	-7.5	-8.7	-7.1	-2.5	-8.6	-6.0	-12.5	-7.3	4.0
分散*：	0.6	9.9	5.1	2.8	0.7	1.4	2.2	1.5	1.1	1.5	4.4	1.7	5.4

(3月対前々年度)

※分散とは、データの散らばりの度合いを表す値

- (青) : 医療費の伸び率 上位10県 (減少幅が小さい)
- (赤) : 医療費の伸び率 下位10県 (減少幅が大きい)

医療費の動向 令和2年度4月～3月 ⑥休日数等の調整後の医療費の伸び率

- 休日数等の調整後の医療費の伸び率は、7月以降、1月を除き、▲1～3%程度で推移していたが、3月に1.8%とプラスとなった。
(対前々年度で見ると、▲0.0%となる。)

■診療種別医療費の伸び率（休日数等の補正後・対前年同期比）

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総計	2.9	-11.1	-12.6	-6.1	-1.8	-1.2	-3.0	-2.9	-1.1	-1.9	-4.7	-2.4	1.8
入院	2.1	-7.5	-9.7	-6.0	-3.1	-2.0	-1.4	-0.6	-1.1	-2.6	-4.3	-3.2	-0.9
入院外	2.8	-16.6	-16.9	-7.1	-2.3	-1.8	-4.5	-5.6	-2.3	-2.9	-6.6	-2.1	5.5
歯科	2.8	-17.5	-17.3	-4.7	-0.5	3.1	1.5	3.6	2.5	3.2	-1.9	0.6	5.3
調剤	4.6	-7.1	-10.5	-5.3	0.6	-1.3	-5.9	-6.1	-1.4	-1.4	-4.3	-2.9	-0.8

(3月対前々年度)

(-0.0)

(-0.8)

(0.5)

(2.4)

(-1.2)

(単位：日)

	令和元年度	令和2年度												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
前年同期差	日曜・祭日等	+3	-1	-1	-1	+1	+1	-1	-2	+1	0	0	0	-1
	土曜	+2	0	+2	-1	0	0	+1	0	0	0	-1	-1	
	休日でない木曜	+1	-1	0	0	0	-1	0	0	0	0	-1	0	

(3月対前々年度)

(-1)

(-2)

(1)

※令和2年度2月は前年が閏月のため、上記の補正に加え▲3.4%の補正を行っている。

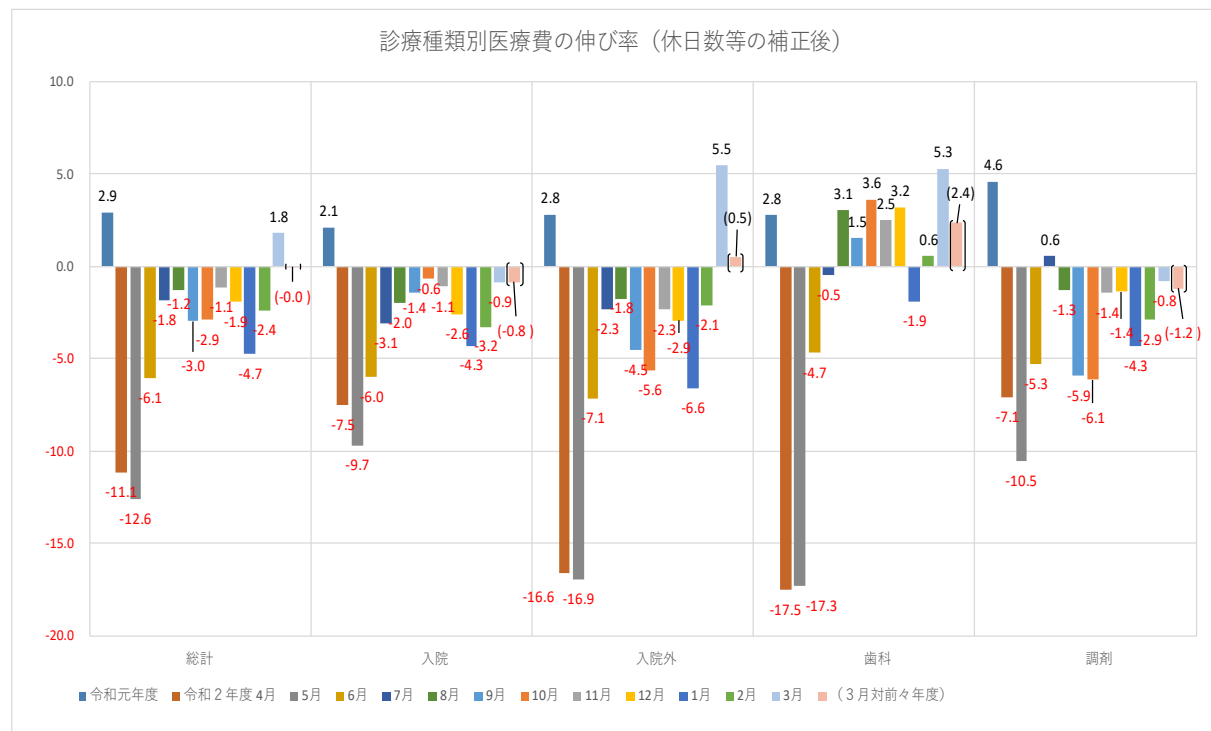
(参考) 医療費の伸び率（対前年同月比）に対する休日数等の対前年同月差の影響補正係数（平成22年度～）

	日曜・祭日等	土曜	休日でない木曜
総計	-2.7	-1.0	-0.4
入院	-1.2	-0.8	-0.2
入院外	-3.5	-1.0	-0.6
歯科	-3.5	-1.0	-1.3
調剤	-4.2	-1.2	-0.2

注。

休日数等の影響を補正した医療費の伸び率は、平成16～21年度の各月の制度別等の1人当たり医療費の伸び率（診療報酬改定等及び閏日の影響を除く）を、日曜・祭日等（年末年始については、12月29日～1月3日を日曜として扱っている）の数、土曜日の数、休日でない木曜日の数、1定点当たりインフルエンザ報告数（国立感染症研究所感染症情報センター「サーベイランス」）、花粉症の影響を表すデータ（環境省花粉観測システムの観測地点・観測時別データの単純平均）の対前年同月差を説明変数として重回帰分析した結果を用いて補正したものである。

なお、総計及び公費については、医療保険計について重回帰分析した結果を用いて補正している。



電子レセプトを用いた医科(入院・入院外)医療費の分析 ＜令和2年度4月～3月＞

レセプト電算処理システムにより処理された診療報酬明細書(電子レセプト)のうち医科入院、医科入院外分を用いて集計、医療費の動向について詳細を分析。
ただし、以下の点について留意が必要。
・電算化率の変動が医療費の伸び率に影響を与えること(電算化率は入院は95%程度、入院外は98%程度)

- 年齢階級別では、入院・入院外ともに、いずれの年齢層もプラスになった。
- 疾病分類別では、入院は「呼吸器系の疾患」がマイナスとなるも、他の疾患の影響で全体はプラスとなっている。入院外は「循環器系の疾患」のプラスの影響が大きい。
- 診療内容別では、入院・入院外ともに「検査・病理診断」の増加幅が大きく、入院外では伸び率への影響も大きくなっている。

※これまでは、集計システム上の制約等により医科入院外に1/100の抽出率でランダム抽出したデータを使用していたため試験的公表として取り扱ってきたが、システム上の対応が完了し、医科入院外についても電算処理分の全数データを用いることができるようになったため、今後は本格公表として取り扱う。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年度4月～3月 ①年齢階級別

○ 入院・入院外ともに、いずれの年齢層もプラスとなっている。特に、入院外の20歳以下の層の伸びが大きい。
(対前々年度で見ると、20歳以下層はマイナスとなる。)

■ 入院 1人当たり医療費 伸び率

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度												(3月対 前々年度)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総数	2.5	-6.1	-10.7	-4.1	-4.4	-3.4	-0.6	0.8	-2.1	-2.2	-3.7	-5.4	1.7	(3.0)
0歳以上 5歳未満	0.8	-19.3	-21.1	-15.8	-17.4	-15.1	-15.5	-9.7	-10.8	-13.8	-12.6	-15.0	-7.6	(-8.3)
5歳以上 10歳未満	3.4	-24.2	-27.4	-17.8	-20.4	-16.5	-10.3	-9.5	-16.8	-23.8	-21.7	-23.3	-10.9	(-15.1)
10歳以上 15歳未満	2.8	-12.2	-15.6	-4.6	-14.6	-6.6	4.0	4.6	-0.4	-12.5	-6.4	-4.5	0.4	(3.0)
15歳以上 20歳未満	4.3	-13.5	-16.3	-11.0	-20.9	-13.2	1.4	5.5	-1.5	-3.4	-4.9	-5.9	1.8	(3.7)
20歳以上 25歳未満	0.7	-10.3	-16.7	-8.1	-4.5	-9.5	-2.8	2.7	-4.6	-3.2	-5.1	-8.3	-0.9	(-2.4)
25歳以上 30歳未満	0.3	-9.5	-12.6	-8.4	-6.9	-4.6	-1.2	0.0	-3.3	-3.8	-8.1	-5.9	0.4	(-0.7)
30歳以上 35歳未満	0.6	-7.1	-11.2	-4.2	-4.7	-2.5	0.0	-1.3	-2.7	-3.0	-7.2	-5.7	-0.8	(0.5)
35歳以上 40歳未満	0.7	-7.2	-12.0	-4.4	-2.6	-3.4	0.9	1.1	-3.2	-3.2	-5.1	-5.8	0.0	(1.2)
40歳以上 45歳未満	1.7	-6.0	-11.5	-6.0	-6.1	-4.6	-0.9	1.1	-4.9	-4.4	-6.2	-6.2	0.1	(1.7)
45歳以上 50歳未満	0.9	-7.6	-12.4	-5.8	-6.1	-5.2	-0.3	-0.4	-3.7	-2.9	-5.7	-6.0	-0.6	(0.2)
50歳以上 55歳未満	0.3	-6.7	-11.2	-5.3	-5.1	-4.4	1.2	0.9	-2.6	-1.6	-2.8	-2.8	1.2	(2.1)
55歳以上 60歳未満	1.3	-5.4	-11.1	-5.1	-5.4	-5.0	-1.0	-0.4	-4.0	-2.7	-6.0	-7.0	-0.2	(0.5)
60歳以上 65歳未満	1.2	-5.0	-11.3	-6.1	-5.5	-3.2	-1.4	0.4	-2.4	-3.1	-4.7	-6.7	0.2	(1.9)
65歳以上 70歳未満	1.2	-5.7	-12.0	-5.7	-5.2	-3.4	-1.7	0.7	-2.8	-2.8	-5.2	-6.8	0.2	(1.3)
70歳以上 75歳未満	0.9	-7.1	-13.2	-5.4	-5.5	-3.6	-1.9	0.0	-3.0	-2.5	-4.0	-5.7	1.7	(2.0)
75歳以上 80歳未満	1.1	-7.2	-13.0	-4.9	-5.1	-3.9	-1.3	0.0	-3.1	-3.2	-5.7	-7.5	0.9	(0.9)
80歳以上 85歳未満	1.1	-7.7	-11.4	-4.5	-5.0	-5.0	-2.2	-0.9	-3.7	-3.3	-4.6	-6.1	0.7	(-0.3)
85歳以上 90歳未満	0.8	-7.8	-9.9	-4.1	-4.9	-4.6	-2.0	-1.5	-3.3	-4.1	-4.7	-6.6	0.3	(-1.1)
90歳以上 95歳未満	1.0	-7.4	-9.4	-4.5	-5.5	-5.3	-3.7	-3.0	-4.0	-4.1	-3.6	-6.9	-0.2	(-2.0)
95歳以上 100歳未満	-1.0	-8.4	-10.7	-6.0	-6.8	-8.5	-5.2	-4.8	-7.0	-6.1	-5.6	-8.7	-3.6	(-6.4)
100歳以上	3.6	-7.6	-8.5	-5.9	-4.2	-5.4	-1.8	-3.6	-4.9	-3.7	-3.2	-6.5	0.9	(0.1)

■ 入院外 1人当たり医療費 伸び率

	令和元年度	令和2年度												(3月対 前々年度)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総数	2.4	-13.3	-15.5	-2.2	-5.4	-4.4	-0.6	0.8	-5.5	-2.5	-6.3	-3.6	10.5	(6.4)
0歳以上 5歳未満	-1.5	-44.8	-51.7	-36.3	-31.8	-28.0	-28.3	-9.8	-18.2	-15.6	-19.5	-13.3	19.9	(-7.8)
5歳以上 10歳未満	-0.9	-38.2	-39.2	-24.1	-11.6	-9.6	-15.3	-1.9	-20.1	-28.9	-30.4	-20.4	17.9	(-9.9)
10歳以上 15歳未満	-0.4	-38.4	-38.7	-18.9	-9.2	5.5	-1.8	4.4	-8.5	-17.9	-21.2	-13.8	30.7	(-5.3)
15歳以上 20歳未満	2.0	-31.1	-29.1	-12.4	-9.0	5.4	4.9	8.4	0.5	-1.2	-7.7	-4.4	23.4	(6.6)
20歳以上 25歳未満	0.4	-18.5	-19.1	-3.1	-1.4	3.3	3.6	7.4	-0.7	0.8	-3.7	-0.2	16.0	(7.7)
25歳以上 30歳未満	0.6	-17.1	-17.5	-4.6	-3.8	0.4	1.6	4.3	-4.4	-2.9	-6.2	-3.8	12.3	(3.7)
30歳以上 35歳未満	1.9	-16.4	-18.4	-4.8	-4.9	-1.3	0.4	3.6	-4.6	-4.9	-6.7	-4.8	12.2	(4.6)
35歳以上 40歳未満	1.5	-15.2	-18.2	-4.4	-4.9	-2.3	0.3	2.3	-5.9	-4.9	-7.6	-4.6	11.1	(3.5)
40歳以上 45歳未満	2.7	-13.5	-15.4	-3.3	-4.8	-1.6	0.9	2.3	-5.9	-4.4	-7.1	-4.4	10.8	(5.0)
45歳以上 50歳未満	2.2	-11.9	-13.7	-2.2	-4.8	-3.2	0.8	2.1	-5.7	-2.7	-6.0	-3.0	10.1	(5.5)
50歳以上 55歳未満	2.1	-11.5	-13.3	-1.7	-5.3	-4.1	0.1	1.5	-5.8	-2.1	-4.7	-2.4	9.4	(5.8)
55歳以上 60歳未満	2.8	-10.4	-12.4	-0.9	-4.7	-4.3	0.7	1.7	-5.4	-1.1	-5.2	-3.1	8.1	(6.1)
60歳以上 65歳未満	2.2	-10.2	-13.4	-0.5	-4.8	-5.0	0.3	0.2	-5.3	-1.6	-5.1	-3.3	8.2	(6.6)
65歳以上 70歳未満	2.3	-10.4	-13.6	0.0	-4.8	-5.1	0.0	-0.1	-5.4	-1.2	-5.9	-3.0	8.6	(7.7)
70歳以上 75歳未満	1.5	-11.1	-14.1	-0.1	-5.3	-5.8	-0.4	-0.7	-5.4	-1.0	-5.3	-2.5	8.8	(7.4)
75歳以上 80歳未満	1.3	-11.7	-14.2	-0.6	-5.8	-6.1	-1.1	-1.3	-6.2	-2.0	-6.6	-4.2	7.5	(5.6)
80歳以上 85歳未満	1.7	-12.0	-13.2	-0.1	-5.6	-5.9	-1.4	-1.0	-6.0	-1.4	-5.8	-3.2	8.3	(6.1)
85歳以上 90歳未満	1.3	-11.8	-11.8	0.0	-5.3	-5.5	-1.2	-1.0	-5.7	-1.5	-5.5	-3.7	7.4	(4.6)
90歳以上 95歳未満	1.3	-10.8	-10.2	0.9	-3.9	-4.4	-0.6	-0.5	-4.5	-1.0	-3.8	-2.3	7.7	(4.5)
95歳以上 100歳未満	-0.5	-9.2	-8.0	1.6	-3.0	-3.4	-0.8	-1.0	-4.1	-0.1	-2.8	-0.6	7.2	(3.6)
100歳以上	6.1	-5.3	-3.2	5.2	1.9	2.5	5.3	2.9	1.6	4.0	4.6	3.7	13.6	(14.1)

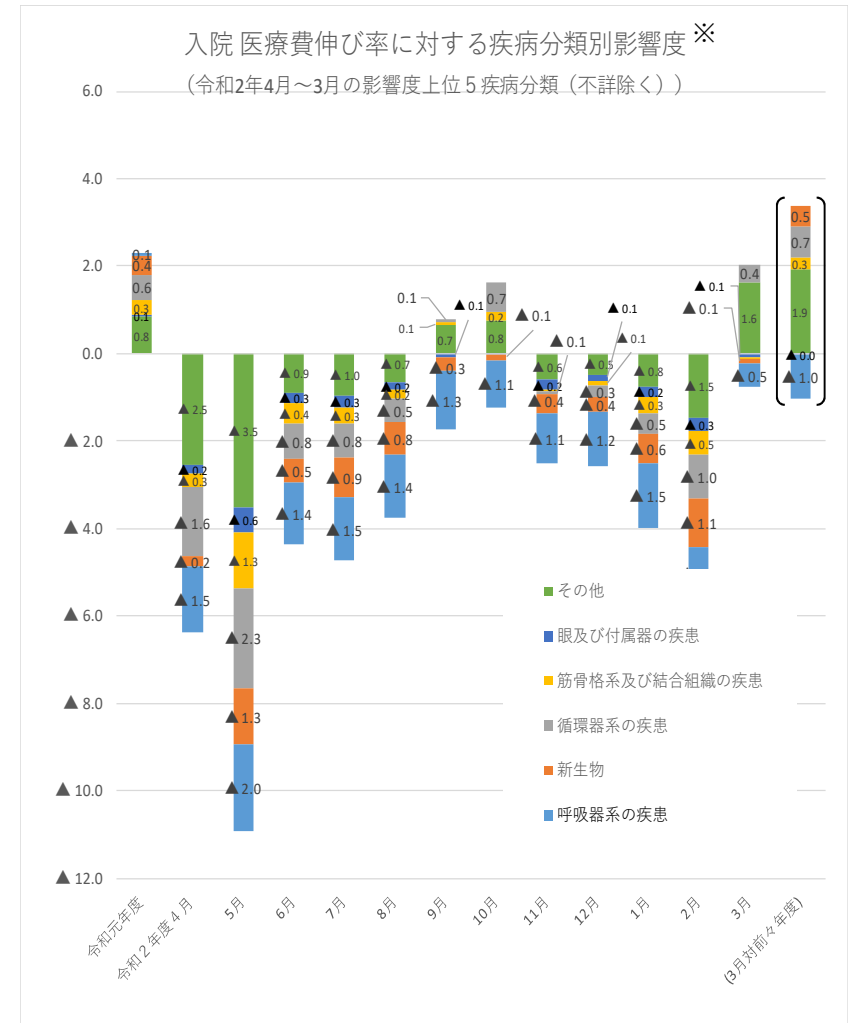
：伸び率の下位3階級（減少幅が大きい）

※ 1人当たり医療費の算出にあたり、各年齢階級毎の人数は総務省統計局「人口推計」における5歳階級別人口を用いた。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年度4月～3月 ②-1 疾病分類別 入院

- 疾病分類別の医療費の伸び率を見ると、依然、「呼吸器系の疾患」の減少幅が大きいものの、影響度で見ると、他の疾病のプラスにより結果として全体としてはプラスとなっている。
(対前々年度で見ると、「呼吸器系の疾患」の減少幅は▲15.9%と大きくなる。)

■ 入院 疾病分類別医療費の伸び率	(単位: %)													(3月対前々年度)	(単位: %)
	令和元年度	令和2年度													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		令和元年度医療費の構成割合
総数	2.3	▲6.4	▲10.9	▲4.4	▲4.7	▲3.8	▲0.9	0.4	▲2.5	▲2.6	▲4.0	▲5.7	1.3	(2.4)	100.0
感染症及び寄生虫症	1.2	▲16.2	▲14.8	▲7.4	▲4.1	▲2.2	0.9	1.1	▲0.7	▲2.7	▲5.4	▲4.9	7.5	(▲0.7)	1.4
新生物	2.7	▲1.5	▲8.1	▲3.2	▲5.5	▲4.7	▲1.7	▲0.6	▲2.6	▲2.2	▲4.1	▲6.7	▲0.8	(3.0)	16.4
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	3.7	▲6.4	▲7.5	▲4.9	▲3.2	▲4.3	▲1.4	▲4.7	▲3.3	▲4.9	▲4.1	▲3.2	0.4	(▲0.3)	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.4	▲8.3	▲9.9	▲4.0	▲3.4	▲3.4	2.3	0.3	▲2.7	▲4.3	▲6.3	▲7.9	0.6	(▲0.7)	2.7
精神及び行動の障害	▲0.4	▲1.9	▲2.6	▲1.2	▲1.0	▲1.1	▲0.6	▲0.2	▲1.5	▲1.3	▲2.3	▲5.2	▲1.3	(▲1.9)	8.6
神経系の疾患	4.0	▲1.5	▲3.9	▲0.2	▲0.1	▲0.0	1.7	2.6	▲0.1	▲0.3	▲1.3	▲4.8	0.7	(3.2)	6.5
眼及び付属器の疾患	3.4	▲13.9	▲38.8	▲16.9	▲17.1	▲12.2	▲7.0	▲2.1	▲14.7	▲8.7	▲16.7	▲20.1	▲6.3	(▲1.8)	1.5
耳及び乳様突起の疾患	0.4	▲30.5	▲33.8	▲19.3	▲13.3	▲14.9	▲6.5	▲6.1	▲12.0	▲13.4	▲18.2	▲19.4	▲6.2	(▲8.0)	0.3
循環器系の疾患	2.6	▲7.0	▲10.3	▲3.7	▲3.6	▲2.5	0.4	3.2	▲0.3	▲1.2	▲2.2	▲4.5	1.8	(3.1)	21.9
呼吸器系の疾患	1.1	▲23.2	▲29.6	▲23.3	▲23.5	▲22.2	▲20.7	▲17.4	▲18.2	▲19.3	▲22.0	▲20.1	▲8.9	(▲15.9)	6.3
消化器系の疾患	2.0	▲10.0	▲13.0	▲3.2	▲1.8	▲1.9	1.1	1.6	▲3.5	▲2.2	▲6.2	▲7.3	2.5	(1.9)	5.9
皮膚及び皮下組織の疾患	3.6	▲5.6	▲7.7	▲0.5	0.4	▲0.8	0.8	0.2	▲1.5	▲1.7	▲5.8	▲8.2	0.3	(3.2)	0.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	4.8	▲4.5	▲18.4	▲6.0	▲4.5	▲2.8	0.7	2.5	▲0.3	▲1.5	▲5.0	▲7.2	▲0.2	(3.9)	7.2
腎尿路生殖器系の疾患	4.4	▲4.6	▲7.9	▲0.9	▲1.9	▲0.4	2.9	2.5	▲0.2	▲0.1	▲2.9	▲6.5	1.3	(4.2)	4.2
妊娠、分娩及び産じょく	▲1.7	▲2.4	▲6.3	0.0	▲3.0	▲1.8	0.3	▲1.9	▲6.8	▲8.6	▲9.9	▲9.4	▲0.7	(0.2)	1.1
周産期に発生した病態	0.4	4.2	6.4	11.6	0.1	5.0	2.1	7.5	▲2.0	▲1.1	▲4.7	▲6.5	▲7.6	(3.4)	0.9
先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	▲11.1	▲18.7	▲7.3	▲9.3	▲6.2	3.9	3.6	▲4.0	▲10.1	▲1.9	▲11.0	▲2.6	(▲0.9)	0.8
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.3	▲9.0	▲10.7	▲5.6	▲8.2	▲8.5	▲5.5	▲5.7	▲6.8	▲5.5	▲7.1	▲5.5	3.2	(0.9)	0.9
損傷、中毒及びその他の外因の影響	3.7	▲5.3	▲8.5	▲0.4	▲1.2	▲0.8	2.7	3.3	▲0.2	▲0.4	▲0.6	▲3.6	3.4	(6.0)	10.2
不詳	▲11.4	▲14.0	▲17.4	▲19.4	▲17.2	▲16.8	▲15.2	▲16.2	▲18.0	▲15.2	▲13.4	▲14.1	▲10.0	(▲19.2)	1.5



下位5疾病分類 (減少幅が大きい) ※不詳除く

上位5疾病分類

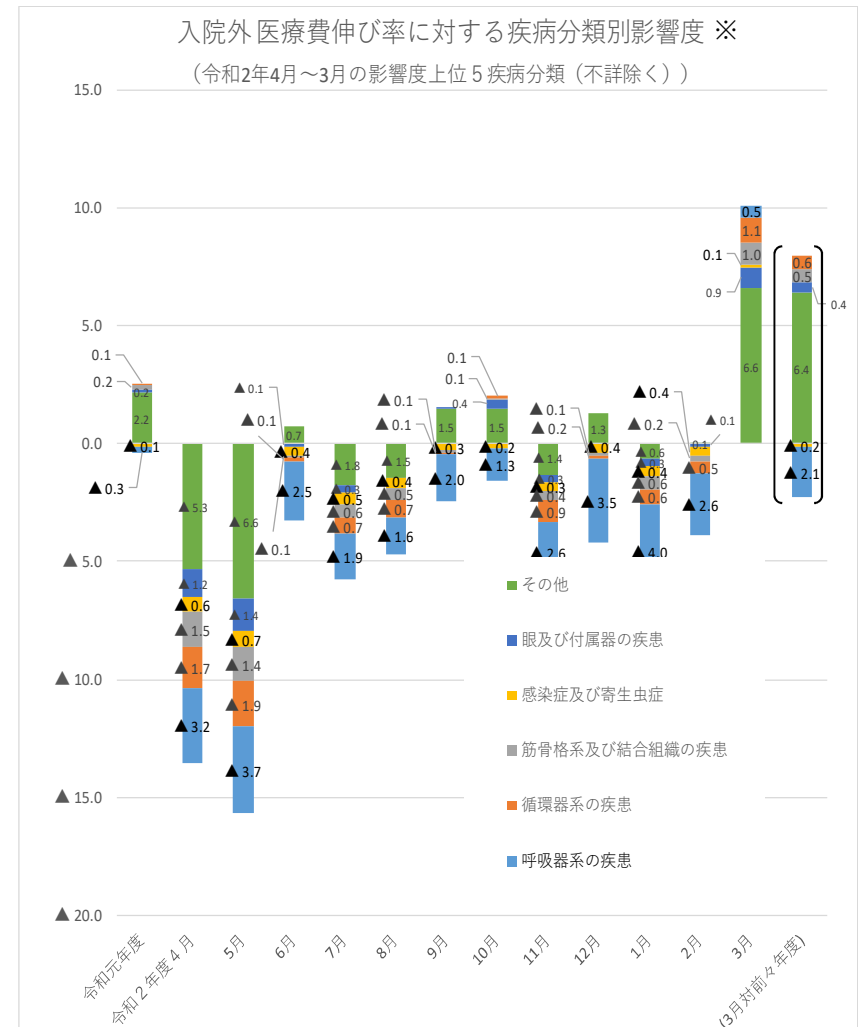
※影響度は (各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) ×100 で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年度4月～3月 ②-2 疾病分類別 入院外

- 疾病分類別の医療費の伸び率を見ると、3月はこれまで大きく減少していた「呼吸器系の疾患」がプラスとなり、マイナスの疾患は少なくなった。
- 医療費全体の伸び率に対する影響度では、「循環器系の疾患」のプラスの影響が大きい。
(対前々年度で見ると、「呼吸器系の疾患」は▲21.2%と大きなマイナスとなる。)

■ 入院外 疾病分類別医療費の伸び率	(単位：%)													(3月対前々年度)	(単位：%)
	令和元年度	令和2年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		令和元年度医療費の構成割合	
総数	2.2	▲13.6	▲15.7	▲2.5	▲5.7	▲4.7	▲0.9	0.5	▲5.9	▲2.9	▲6.6	▲3.8	10.1	(5.7)	100.0
感染症及び寄生虫症	▲4.3	▲23.7	▲26.7	▲14.4	▲17.8	▲14.7	▲11.2	▲9.4	▲14.3	▲14.7	▲17.3	▲15.7	2.8	(▲6.8)	2.5
新生物	9.3	▲2.5	▲9.2	5.9	▲0.3	▲2.1	5.9	2.0	▲0.3	4.4	0.1	3.3	13.7	(23.4)	12.3
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	12.5	4.5	2.6	4.9	4.8	▲1.5	8.3	▲0.5	0.5	0.1	1.6	▲6.7	9.0	(25.2)	1.2
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.2	▲7.7	▲9.6	1.1	▲2.5	▲2.5	1.6	2.9	▲3.6	1.3	▲2.3	▲1.0	8.5	(7.8)	10.6
精神及び行動の障害	1.8	▲9.7	▲10.9	▲0.1	▲4.6	▲3.4	1.9	2.6	▲3.7	0.9	▲3.2	▲2.6	8.1	(7.2)	4.0
神経系の疾患	4.7	▲6.9	▲7.5	3.4	▲0.3	▲0.0	4.7	4.5	0.4	3.8	0.8	2.7	12.1	(13.5)	3.3
眼及び付属器の疾患	2.7	▲19.6	▲22.2	▲1.8	▲5.0	▲0.3	0.8	7.2	▲4.9	▲0.3	▲5.4	▲2.3	15.3	(7.1)	6.0
耳及び乳様突起の疾患	▲0.5	▲33.8	▲29.7	▲16.0	▲14.5	▲11.1	▲7.1	0.0	▲11.2	▲9.4	▲13.5	▲6.5	13.3	(▲4.9)	0.9
循環器系の疾患	0.4	▲10.6	▲12.3	▲0.9	▲4.3	▲4.6	▲0.6	0.4	▲5.8	▲1.0	▲4.1	▲3.2	6.7	(3.7)	15.7
呼吸器系の疾患	▲3.0	▲38.1	▲46.5	▲34.1	▲27.0	▲24.6	▲27.8	▲17.2	▲29.8	▲36.4	▲41.8	▲27.6	7.3	(▲21.2)	8.1
消化器系の疾患	1.6	▲17.6	▲18.7	▲4.7	▲6.9	▲4.7	1.1	4.6	▲3.8	▲0.6	▲4.2	▲1.1	12.4	(6.4)	5.3
皮膚及び皮下組織の疾患	5.4	▲14.6	▲9.3	6.1	▲4.6	1.7	1.9	8.1	▲2.4	5.3	▲0.8	1.0	11.3	(10.5)	3.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	1.9	▲16.9	▲15.7	▲0.9	▲6.5	▲5.7	▲1.0	0.8	▲4.8	▲1.4	▲6.6	▲2.7	10.8	(6.2)	8.9
腎尿路生殖器系の疾患	2.9	▲4.5	▲7.3	2.9	▲1.8	▲3.1	1.5	▲0.1	▲3.4	0.8	▲3.8	▲2.8	5.1	(6.5)	10.9
妊娠、分娩及び産じょく	▲5.1	▲10.0	▲10.5	▲3.7	▲6.6	▲6.1	▲0.9	▲1.9	▲5.9	▲1.8	▲2.1	▲1.4	8.6	(4.9)	0.1
周産期に発生した病態	▲1.0	▲20.8	▲8.9	8.2	9.9	▲0.3	2.8	1.2	▲0.9	▲1.8	▲1.4	▲7.8	▲14.8	(▲32.3)	0.2
先天奇形、変形及び染色体異常	3.2	▲17.0	▲14.2	3.5	▲1.2	▲0.6	3.0	4.3	▲1.8	0.6	▲0.6	▲1.9	7.8	(2.0)	0.4
症状、徴候及び異常臨床所見：異常検査所見で他に分類されないもの	4.0	▲20.7	▲20.9	▲5.3	▲7.7	▲3.7	1.0	4.2	▲2.0	▲0.3	▲1.8	2.2	21.4	(13.8)	1.8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1.6	▲22.8	▲22.3	▲5.0	▲7.6	▲2.3	▲1.2	1.9	▲2.7	0.4	▲4.4	▲3.1	17.0	(7.3)	2.7
不詳	▲7.9	▲22.3	▲22.1	▲9.3	▲12.9	▲10.8	▲8.3	▲7.4	▲12.8	▲8.8	▲11.2	▲9.0	2.7	(▲10.2)	2.0

：下位5疾病分類（減少幅が大きい）※不詳除く ：上位5疾病分類

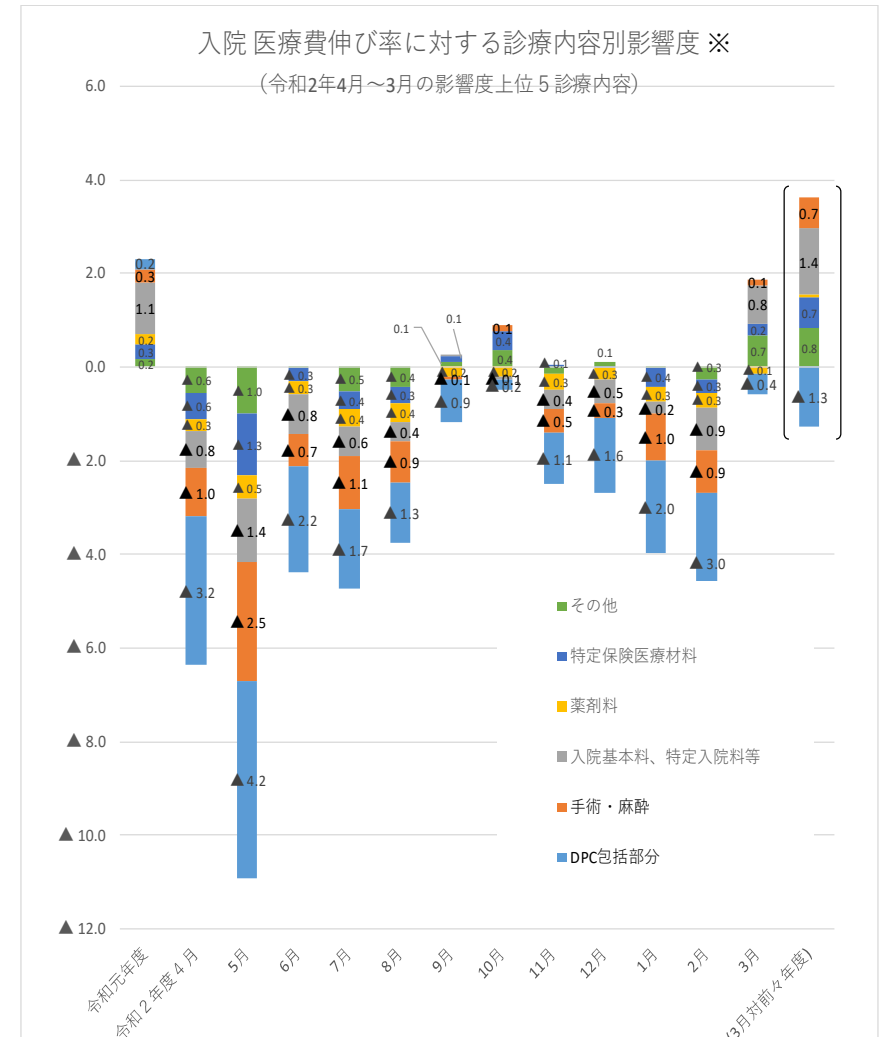


※影響度は(各疾病分類の医療費の増減分)÷(前期の医療費総数)×100で算定

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年度4月～3月 ③-1 診療内容別 入院

- 診療内容別に医療費の伸び率を見ると、3月は「検査・病理診断」が大きく増加している。(対前々年度で見ても大きくプラス。)
- 医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、「入院基本料、特定入院料等」のプラスの影響が大きい。

診療内容	令和元年度	令和2年度 (単位: %)												(3月対前々年度)	令和元年度医療費の構成割合
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総数	2.3	▲ 6.4	▲ 10.9	▲ 4.4	▲ 4.7	▲ 3.8	▲ 0.9	0.4	▲ 2.5	▲ 2.6	▲ 4.0	▲ 5.7	1.3	(2.4)	100.0
初診	0.6	▲ 22.3	▲ 18.3	▲ 8.7	▲ 12.0	▲ 8.7	▲ 8.5	▲ 7.0	▲ 9.7	▲ 11.5	▲ 11.8	▲ 9.1	2.7	(▲ 4.1)	0.1
医学管理	0.2	▲ 9.5	▲ 14.6	▲ 0.8	▲ 5.6	▲ 3.1	1.5	4.1	▲ 0.8	0.6	▲ 2.7	▲ 2.9	6.4	(6.8)	0.7
在宅	▲ 0.1	▲ 11.8	▲ 12.8	▲ 9.2	▲ 6.0	▲ 4.2	▲ 0.4	2.7	▲ 5.4	▲ 4.2	▲ 3.6	▲ 7.3	2.1	(▲ 2.0)	0.1
投薬	▲ 2.0	▲ 5.7	▲ 7.0	▲ 7.1	▲ 6.8	▲ 6.6	▲ 6.2	▲ 5.1	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 5.7	▲ 7.4	▲ 3.8	(▲ 7.1)	0.1
注射	▲ 3.1	▲ 8.2	▲ 9.4	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 9.6	▲ 7.1	▲ 6.0	▲ 7.5	▲ 6.4	▲ 6.4	▲ 6.0	▲ 1.1	(▲ 5.4)	0.2
処置	2.5	▲ 3.2	▲ 5.1	▲ 1.6	▲ 4.1	▲ 4.6	▲ 1.4	▲ 0.8	▲ 4.5	▲ 2.9	▲ 4.7	▲ 7.1	▲ 1.0	(▲ 0.3)	1.4
手術・麻酔	2.5	▲ 8.8	▲ 22.0	▲ 5.9	▲ 9.0	▲ 7.4	▲ 0.5	1.2	▲ 4.2	▲ 2.7	▲ 8.5	▲ 7.6	1.0	(5.8)	11.9
検査・病理診断	▲ 1.2	▲ 15.2	▲ 19.1	▲ 6.7	▲ 11.4	▲ 8.9	▲ 2.7	5.2	5.9	14.9	21.0	25.6	38.7	(35.3)	1.3
画像診断	▲ 0.8	▲ 10.3	▲ 13.1	▲ 1.0	▲ 9.1	▲ 6.9	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 6.4	▲ 3.8	▲ 6.5	▲ 2.7	5.3	(3.5)	0.5
リハビリテーション	2.6	2.6	▲ 0.3	6.7	1.5	1.5	6.8	7.6	2.2	3.9	2.2	▲ 0.0	5.1	(10.2)	5.1
精神科専門療法	1.9	1.2	▲ 3.9	10.1	▲ 0.6	1.2	7.0	7.8	1.4	5.9	0.8	0.2	6.1	(12.5)	0.5
放射線治療	3.0	2.2	▲ 12.1	3.6	▲ 6.9	▲ 3.7	0.9	0.0	▲ 6.4	▲ 2.1	▲ 5.5	▲ 7.0	4.0	(10.2)	0.3
入院基本料、特定入院料等	3.1	▲ 2.3	▲ 3.8	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 1.1	0.0	▲ 0.2	▲ 1.2	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 2.6	2.3	(4.0)	35.1
DPC包括部分	0.8	▲ 11.4	▲ 15.0	▲ 8.0	▲ 6.2	▲ 4.6	▲ 3.2	▲ 0.8	▲ 3.9	▲ 5.7	▲ 7.1	▲ 10.6	▲ 1.6	(▲ 4.5)	27.9
薬剤料	6.6	▲ 6.9	▲ 13.6	▲ 8.5	▲ 10.0	▲ 11.6	▲ 5.9	▲ 5.6	▲ 9.3	▲ 6.7	▲ 9.2	▲ 8.8	▲ 3.6	(1.3)	3.7
特定保険医療材料	5.2	▲ 8.7	▲ 21.3	▲ 4.0	▲ 6.0	▲ 5.4	1.9	6.1	0.1	▲ 0.2	▲ 6.3	▲ 4.4	3.6	(10.6)	6.4
入院時食事療養	0.1	▲ 6.8	▲ 9.1	▲ 7.1	▲ 5.7	▲ 5.1	▲ 4.4	▲ 3.0	▲ 4.2	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 9.1	▲ 3.8	(▲ 6.1)	3.7
生活療養食事療養	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 3.0	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 2.4	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 5.5	▲ 2.2	(▲ 3.3)	0.7
生活療養環境療養	▲ 0.2	▲ 1.8	▲ 2.5	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 2.5	▲ 2.3	▲ 2.2	▲ 2.4	▲ 2.2	▲ 5.5	▲ 2.1	(▲ 2.9)	0.2
その他	▲ 0.4	▲ 5.5	20.7	12.5	▲ 21.3	54.0	▲ 7.6	94.0	▲ 5.6	▲ 7.9	▲ 6.7	▲ 8.8	▲ 2.1	(▲ 5.1)	0.0



※影響度は (各診療内容の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100 で算定

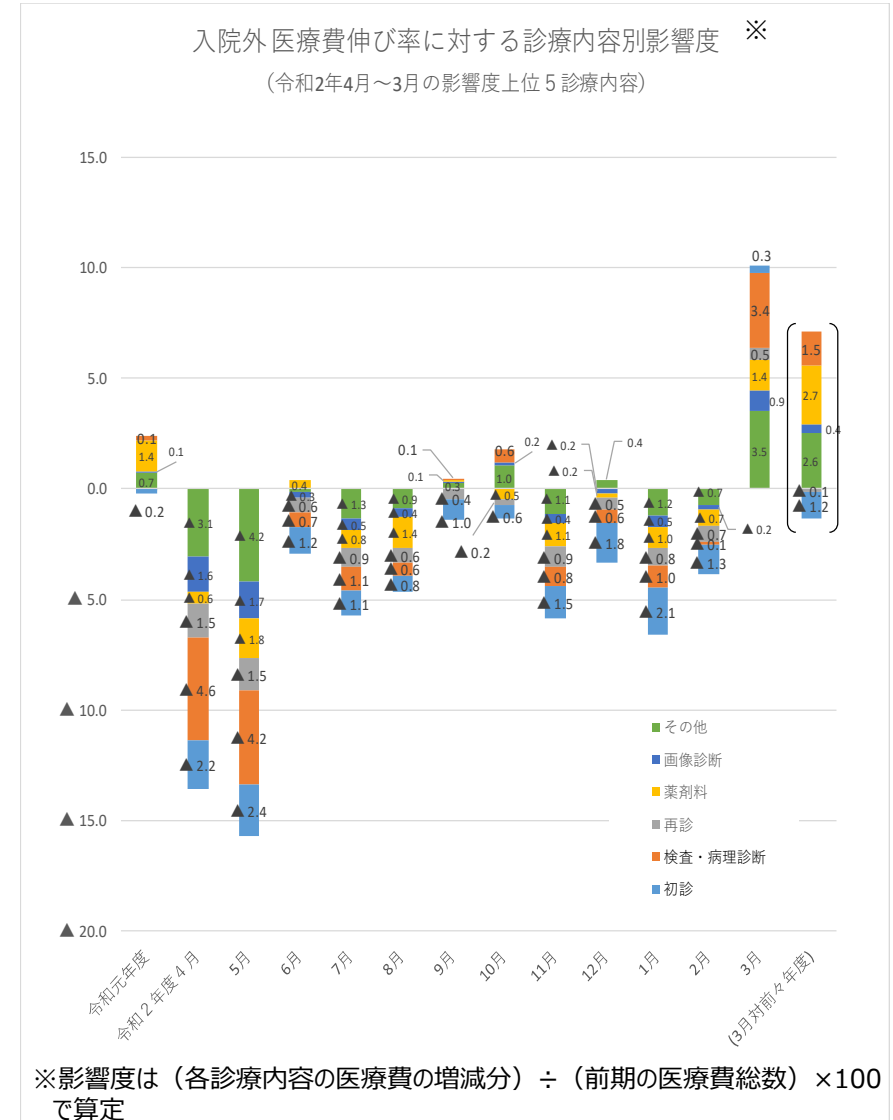
■ : 下位5診療内容 (減少幅が大きい) ※その他除 ■ : 上位5診療内容

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年度4月～3月 ③-2 診療内容別 入院外

- 診療内容別に医療費の伸び率を見ると、3月はいずれの診療内容もプラスとなり、特に「検査・病理診断」の伸びが大きい。
(対前々年度で見ると、「初診」「再診」は微減。)
- 医療費全体の伸び率に対する影響度で見ても、「検査・病理診断」の影響が大きくなっている。

	令和元年度	令和2年度 (単位：%)												(3月対前々年度)	令和元年度医療費の構成割合 (単位：%)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総数	2.2	▲13.6	▲15.7	▲2.5	▲5.7	▲4.7	▲0.9	0.5	▲5.9	▲2.9	▲6.6	▲3.8	10.1	(5.7)	100.0
初診	▲3.0	▲42.5	▲41.3	▲21.1	▲21.3	▲15.6	▲18.8	▲12.2	▲26.5	▲31.0	▲36.1	▲22.9	7.2	(▲1.2)	5.4
再診	▲0.2	▲16.9	▲17.5	▲7.4	▲10.1	▲7.6	▲5.1	▲2.4	▲10.7	▲6.1	▲9.6	▲8.6	5.8	(▲0.1)	8.7
医学管理	0.3	▲12.1	▲15.5	▲4.2	▲4.4	▲3.0	▲0.9	6.6	▲0.8	3.9	▲0.1	2.1	17.8	(0.8)	8.3
在宅	5.0	4.3	4.0	9.1	7.0	7.0	8.5	7.6	6.3	8.1	7.2	7.7	10.1	(1.0)	6.1
投薬	▲4.5	▲13.2	▲15.0	▲5.5	▲7.9	▲6.4	▲5.2	▲2.7	▲10.8	▲8.6	▲13.1	▲10.0	3.1	(▲0.1)	1.2
注射	▲0.8	▲14.2	▲14.7	▲2.1	▲9.1	▲8.5	▲2.5	▲4.5	▲8.2	▲5.0	▲10.1	▲5.7	7.9	(0.0)	0.7
処置	1.7	▲6.9	▲8.9	0.7	▲3.0	▲4.3	0.1	▲1.8	▲5.6	▲0.7	▲6.4	▲5.7	3.8	(0.2)	8.7
手術・麻酔	4.8	▲10.7	▲23.2	▲3.8	▲10.0	▲3.2	0.0	5.4	▲4.2	2.3	▲4.6	▲3.6	11.2	(0.4)	2.8
検査・病理診断	0.8	▲24.9	▲22.8	▲3.7	▲5.8	▲3.3	0.5	3.2	▲4.7	▲3.2	▲5.4	▲0.7	19.1	(1.5)	18.4
画像診断	1.2	▲22.7	▲23.4	▲3.5	▲7.6	▲5.5	0.4	2.4	▲5.4	▲3.1	▲7.8	▲3.8	14.0	(0.4)	6.9
処方箋料	0.6	▲13.4	▲15.7	▲5.8	▲8.2	▲6.3	▲5.0	▲2.1	▲10.6	▲7.5	▲10.9	▲9.4	4.8	(▲0.1)	4.8
リハビリテーション	1.4	▲19.1	▲21.4	▲3.7	▲7.7	▲3.7	1.4	6.1	▲0.9	2.6	▲4.0	▲0.4	15.1	(0.1)	1.5
精神科専門療法	1.3	▲12.0	▲14.2	▲1.5	▲6.8	▲5.5	▲0.2	1.2	▲5.4	▲0.7	▲5.9	▲5.2	6.6	(0.1)	2.2
放射線治療	8.7	11.0	▲4.4	10.5	▲0.9	5.0	13.1	7.2	▲0.2	6.3	▲1.3	▲5.8	2.2	(0.1)	0.6
薬剤料	6.5	▲2.6	▲8.0	1.8	▲3.5	▲6.1	0.3	▲2.2	▲4.9	▲0.9	▲4.2	▲3.0	5.8	(2.7)	22.7
特定保険医療材料	5.0	1.0	▲1.8	8.8	2.7	0.9	6.1	4.2	0.3	5.5	0.5	0.3	8.5	(0.1)	1.0
その他	8.6	▲3.3	▲23.7	▲1.1	▲5.9	5.1	6.2	10.2	▲3.3	▲1.0	▲6.2	▲3.2	17.2	(0.0)	0.0

 : 下位5診療内容 (減少幅が大きい) ※その他除く
 : 上位5診療内容



電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 ＜令和2年度4月～3月＞

レセプト電算処理システムにより処理された調剤報酬明細書（電子レセプト）を用いて集計、調剤医療費の動向について詳細を分析。

- 薬剤料の伸び率について、3月は薬剤料、処方箋枚数はプラスに、処方箋1回当たり薬剤料はマイナスに転じた。
- 薬剤料の伸び率を薬効分類別に見ると、「化学療法剤」「ビタミン剤」「抗生物質製剤」などの減少幅が大きい。
- 処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率を薬効分類別で見ると、「ビタミン剤」「抗生物質製剤」など一部は減少しているものの、全体的には増加傾向にあり、影響度で見ると、「腫瘍用薬」「その他の代謝性医薬品」のプラスの影響が大きい。
- 後発医薬品割合（数量ベース）は令和3年2月時点で82.1%。

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年度4月～3月 ① 調剤医療費・薬剤料の伸び率の推移

- 3月の調剤医療費（電算処理分）の伸び率4.6%のうち、薬剤料のプラスの影響が2.8%と過半を占める。
- 薬剤料の伸び率について、薬剤料、処方箋枚数はプラスに、処方箋1枚当たり薬剤料はマイナスに転じた。
（対前々年度で見ると、これまでの傾向と同様、処方箋枚数はマイナスに、処方箋1枚当たり薬剤料はプラスとなる。）

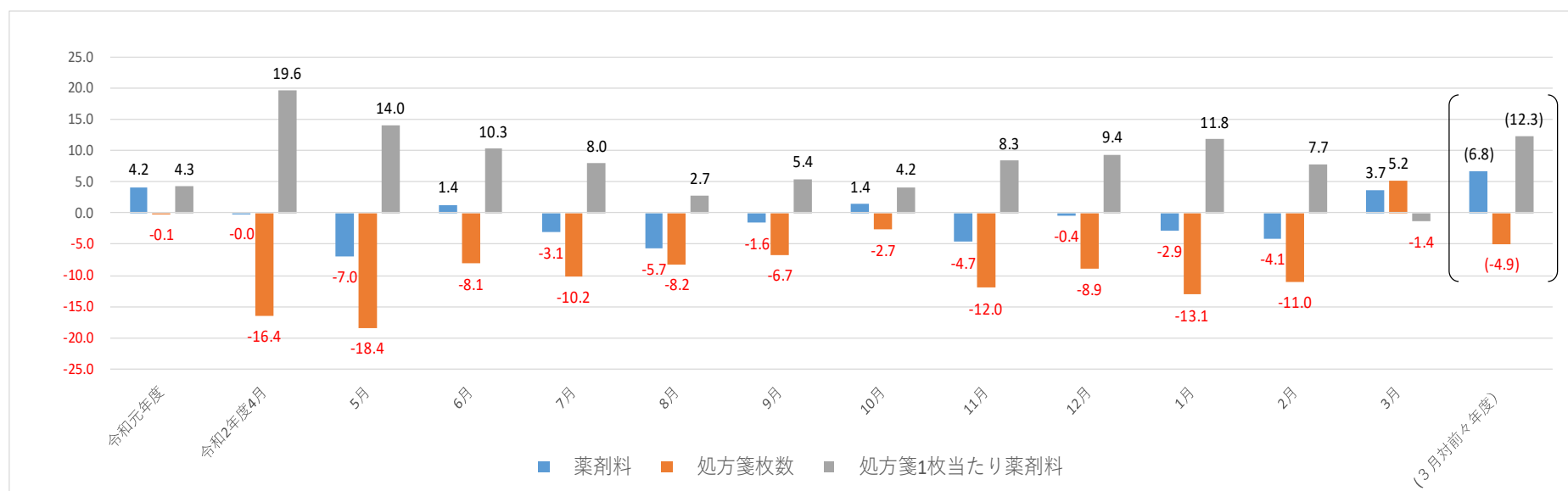
■ 調剤医療費（電算処理分）の伸び率 影響度

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度												(3月対前々年度)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
調剤医療費（電算処理分）	3.7	-2.9	-8.8	0.1	-3.6	-5.3	-1.7	1.1	-5.6	-1.3	-4.3	-4.9	4.6	(5.3)
技術料	0.6	-2.9	-3.6	-0.9	-1.4	-1.1	-0.5	0.1	-2.2	-1.0	-2.1	-1.9	1.8	(0.4)
薬剤料	3.1	-0.0	-5.2	1.0	-2.3	-4.2	-1.2	1.0	-3.4	-0.3	-2.2	-3.0	2.8	(4.9)

■ 薬剤料の伸び率

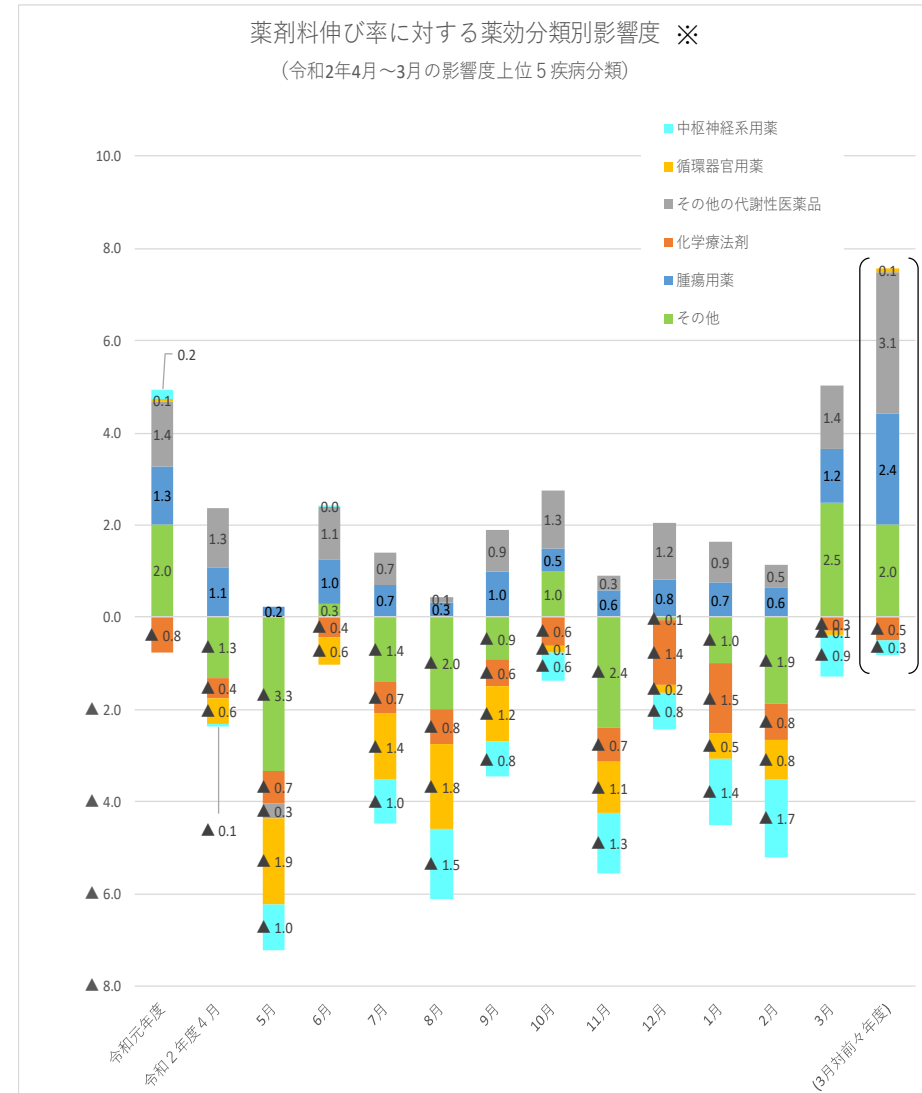
薬剤料	4.2	-0.0	-7.0	1.4	-3.1	-5.7	-1.6	1.4	-4.7	-0.4	-2.9	-4.1	3.7	(6.8)
処方箋枚数	-0.1	-16.4	-18.4	-8.1	-10.2	-8.2	-6.7	-2.7	-12.0	-8.9	-13.1	-11.0	5.2	(-4.9)
処方箋1枚当たり薬剤料	4.3	19.6	14.0	10.3	8.0	2.7	5.4	4.2	8.3	9.4	11.8	7.7	-1.4	(12.3)



電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年度4月～3月 ② 薬効分類別 薬剤料

- これまで大きく減少していた「化学療法剤」「ビタミン剤」「抗生物質製剤」などは引き続き、マイナスを示す一方で、「感覚器官用薬」や「腫瘍用薬」など大きなプラスを示す薬効分類もある。
- 伸び率への影響としては、「化学療法剤」「中枢神経系用薬」などは引き続き、マイナスに影響している一方、「その他の代謝性医薬品」「腫瘍用薬」などはプラスに影響している。

■ 薬効分類別薬剤料伸び率	(単位：%)													(3月対前々年度)	令和元年度薬剤料の構成割合*
	令和元年度	令和2年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
総数	4.2	▲ 0.0	▲ 7.0	1.4	▲ 3.1	▲ 5.7	▲ 1.6	1.4	▲ 4.7	▲ 0.4	▲ 2.9	▲ 4.1	3.7	(6.8)	100.0
中枢神経系用薬	1.4	▲ 0.4	▲ 6.6	0.1	▲ 6.4	▲ 9.9	▲ 5.1	▲ 4.1	▲ 8.8	▲ 5.3	▲ 9.9	▲ 12.1	▲ 6.4	(▲ 2.3)	14.8
感覚器官用薬	▲ 2.0	▲ 14.4	▲ 9.3	0.2	▲ 4.3	▲ 2.9	▲ 1.4	1.5	6.9	1.5	▲ 0.1	4.7	24.3	(▲ 3.4)	3.9
循環器官用薬	0.4	▲ 3.6	▲ 12.0	▲ 3.9	▲ 9.2	▲ 11.8	▲ 7.9	▲ 0.9	▲ 7.5	▲ 1.2	▲ 3.7	▲ 5.8	▲ 0.6	(0.6)	15.0
呼吸器官用薬	3.1	▲ 10.9	▲ 23.8	▲ 17.9	▲ 17.4	▲ 17.4	▲ 16.5	▲ 13.0	▲ 22.9	▲ 18.0	▲ 20.4	▲ 22.1	▲ 13.5	(▲ 13.7)	3.4
消化器官用薬	6.4	2.8	▲ 5.2	3.9	0.9	▲ 1.6	3.5	7.6	0.9	6.3	3.3	1.8	8.4	(15.2)	7.4
ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	8.7	12.5	3.2	7.8	▲ 0.4	▲ 0.7	2.1	3.9	▲ 2.2	3.0	1.1	▲ 2.0	3.2	(17.7)	4.3
泌尿生殖器官および肛門用薬	▲ 3.7	▲ 5.3	▲ 11.0	▲ 1.4	▲ 7.8	▲ 10.8	▲ 5.9	0.7	▲ 4.5	▲ 2.4	▲ 4.9	▲ 6.6	▲ 0.2	(▲ 3.7)	2.3
外皮用薬	1.3	▲ 8.2	▲ 9.1	1.0	▲ 4.7	▲ 2.6	▲ 2.9	4.7	▲ 2.2	4.3	▲ 0.1	▲ 0.7	7.1	(7.2)	3.1
ビタミン剤	5.2	1.1	▲ 3.6	6.0	0.9	▲ 18.8	▲ 21.9	▲ 23.1	▲ 28.7	▲ 25.2	▲ 28.4	▲ 29.4	▲ 25.1	(▲ 20.7)	1.8
滋養強壮薬	4.7	6.9	0.7	8.9	4.0	0.9	8.8	5.5	3.1	7.2	5.6	4.2	8.9	(18.9)	1.0
血液・体液用薬	6.0	▲ 2.9	▲ 10.8	▲ 1.7	▲ 5.5	▲ 7.4	▲ 3.5	1.5	▲ 5.9	1.0	▲ 2.2	▲ 4.6	0.9	(7.1)	7.3
その他の代謝性医薬品	9.8	9.0	▲ 2.2	7.7	4.7	0.8	6.0	8.5	2.2	8.4	5.9	3.5	9.2	(22.6)	14.8
腫瘍用薬	19.5	15.2	3.2	13.5	9.6	4.2	13.1	6.0	7.8	10.9	9.6	8.6	15.2	(36.9)	7.5
アレルギー用薬	2.7	▲ 17.6	▲ 11.1	▲ 4.6	▲ 8.2	▲ 6.9	▲ 9.6	4.2	▲ 8.5	▲ 1.9	▲ 2.1	▲ 7.7	8.7	(▲ 12.3)	3.9
漢方製剤	5.4	1.9	▲ 3.8	5.1	1.8	2.0	5.5	7.6	▲ 0.9	5.1	2.4	0.0	9.8	(13.1)	2.2
抗生物質製剤	▲ 6.4	▲ 33.0	▲ 42.4	▲ 32.3	▲ 27.2	▲ 26.3	▲ 25.9	▲ 19.2	▲ 28.9	▲ 24.4	▲ 28.0	▲ 29.8	▲ 8.1	(▲ 27.7)	1.0
化学療法剤	▲ 15.7	▲ 12.1	▲ 18.3	▲ 11.2	▲ 17.0	▲ 19.6	▲ 14.3	▲ 15.5	▲ 19.4	▲ 30.6	▲ 33.4	▲ 21.5	▲ 8.2	(▲ 13.1)	3.9
生物学的製剤	29.3	30.4	10.8	14.0	6.2	8.0	12.2	2.7	5.3	2.5	7.9	▲ 0.1	8.0	(51.1)	1.1

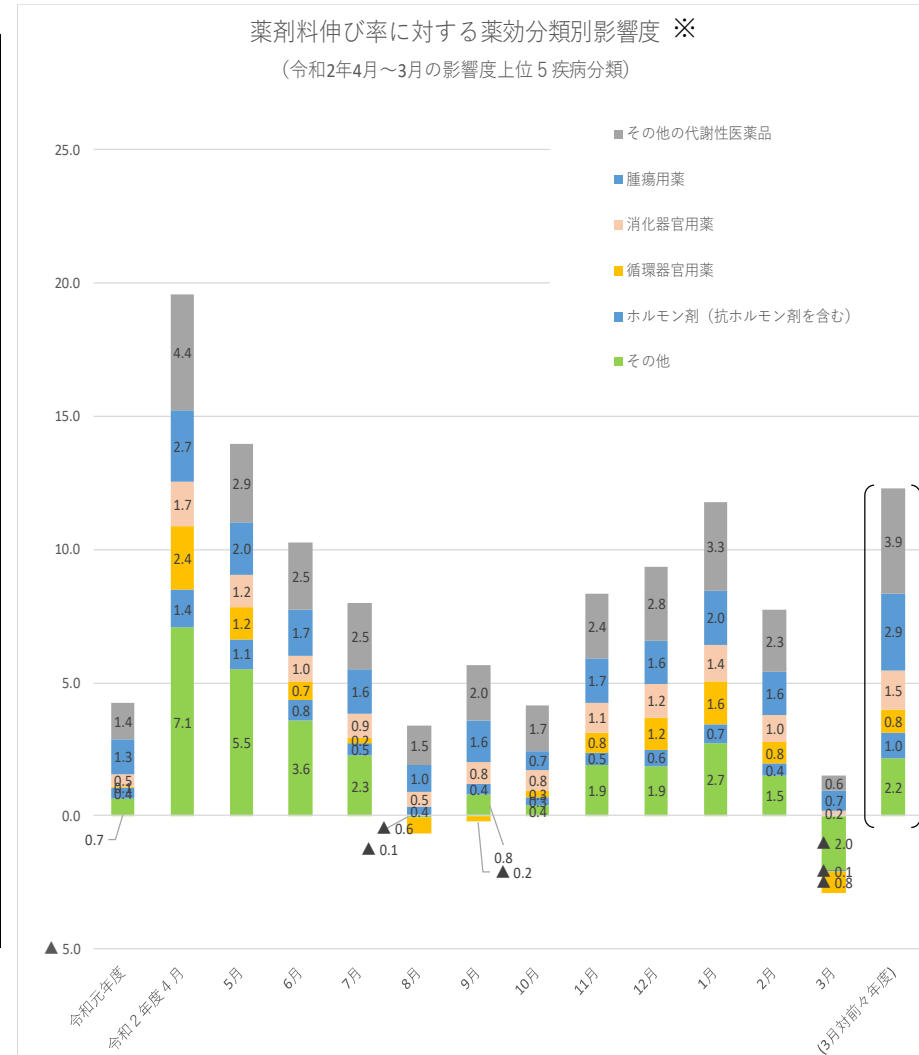


※影響度は(各薬効分類の薬剤料の増減分) ÷ (前期の薬剤料総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年度4月～3月 ③ 薬効分類別 処方箋1枚当たり薬剤料

- 処方箋1枚当たり薬剤料の伸びをみると、「ビタミン剤」「抗生物質製剤」などに加え、「循環器官用薬」や「泌尿生殖器官および肛門用薬」などマイナスとなった薬効分類もある。
- 薬効分類別の影響度を見ると、「循環器官用薬」のマイナスが伸び率に影響している。

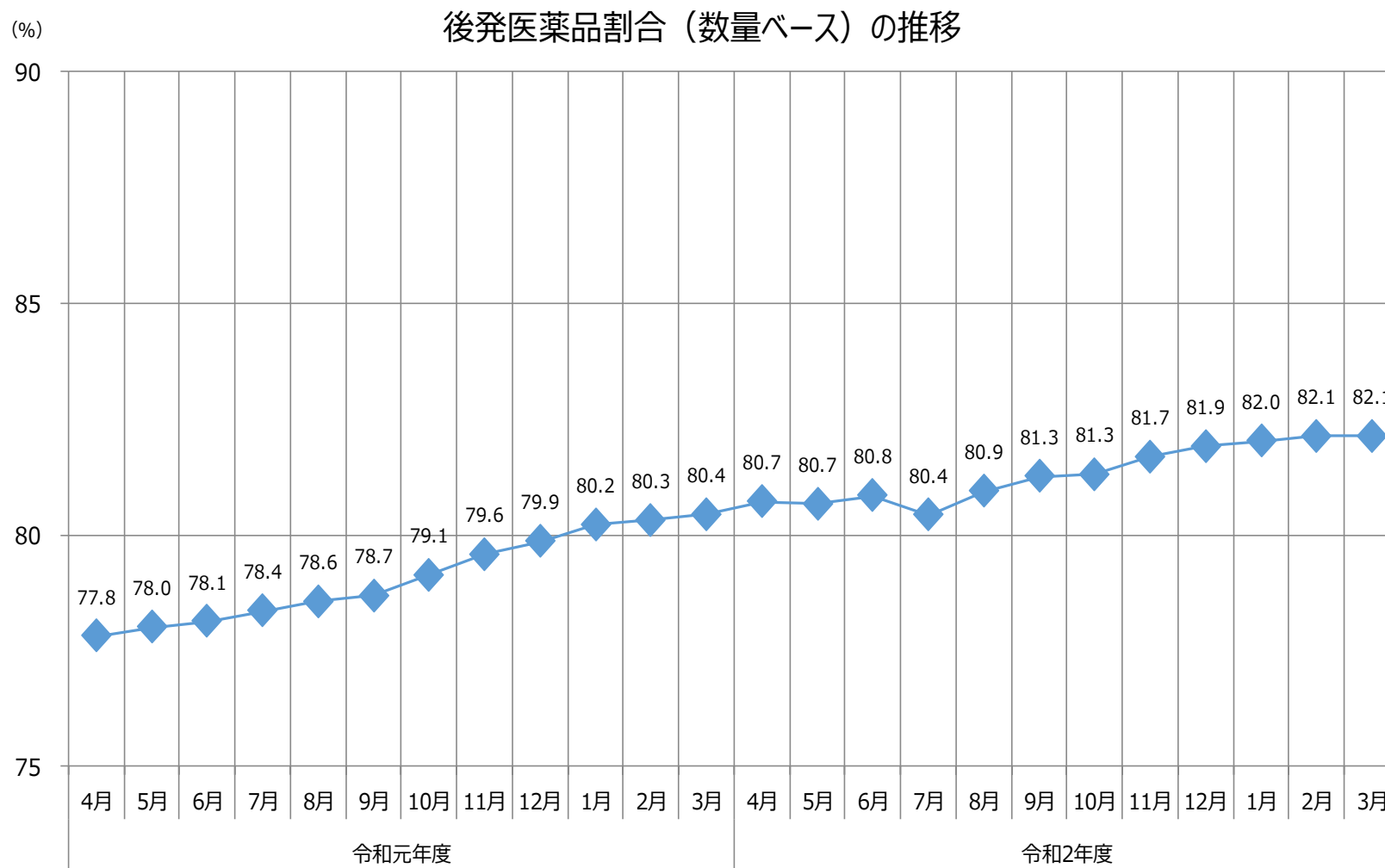
	令和元年度		令和2年度												令和2年度 (3月対前々 年度)	令和元年度 薬剤料の 構成割合※	
	3月	4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
総数	13.8	4.3	19.6	14.0	10.3	8.0	2.7	5.4	4.2	8.3	9.4	11.8	7.7	▲1.4	8.1	(12.3)	100.0
中枢神経系用薬	15.5	1.5	19.1	14.4	8.9	4.3	▲1.9	1.7	▲1.4	3.6	4.0	3.7	▲1.3	▲11.0	3.3	(2.8)	14.8
感覚器官用薬	▲14.1	▲2.0	2.4	11.1	9.0	6.6	5.8	5.7	9.5	9.9	11.5	15.0	17.6	18.2	11.2	(1.6)	3.9
循環器官用薬	11.9	0.5	15.3	7.8	4.6	1.2	▲4.0	▲1.3	1.8	5.1	8.4	10.8	5.8	▲5.5	3.9	(5.8)	15.0
呼吸器用薬	10.3	3.2	6.5	▲6.7	▲10.7	▲8.0	▲10.1	▲10.6	▲10.6	▲12.4	▲10.0	▲8.4	▲12.6	▲17.8	▲9.4	(▲9.3)	3.4
消化器用薬	17.6	6.5	22.9	16.2	13.1	12.4	7.2	10.8	10.5	14.7	16.7	18.8	14.4	3.1	13.2	(21.2)	7.4
ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	26.1	8.8	34.5	26.5	17.2	11.0	8.1	9.4	6.8	11.1	13.0	16.3	10.1	▲1.8	13.0	(23.8)	4.3
泌尿生殖器官および肛門用薬	6.7	▲3.7	13.2	9.1	7.2	2.7	▲2.9	0.8	3.4	8.5	7.2	9.5	5.0	▲5.1	4.6	(1.3)	2.3
外皮用薬	10.7	1.3	9.8	11.4	9.9	6.2	6.0	4.0	7.6	11.1	14.5	14.9	11.6	1.9	8.9	(12.8)	3.1
ビタミン剤	17.0	5.2	20.9	18.1	15.4	12.4	▲11.5	▲16.3	▲21.0	▲19.0	▲17.9	▲17.6	▲20.7	▲28.8	▲7.8	(▲16.6)	1.8
滋養強壮薬	20.7	4.8	27.8	23.4	18.5	15.9	9.8	16.5	8.4	17.1	17.6	21.5	17.0	3.6	16.1	(25.1)	1.0
血液・体液用薬	17.4	6.1	16.1	9.3	7.0	5.3	0.8	3.3	4.3	6.9	10.9	12.5	7.1	▲4.0	6.5	(12.6)	7.3
その他の代謝性医薬品	24.1	9.9	30.4	19.8	17.2	16.6	9.7	13.6	11.5	16.1	19.0	21.9	16.2	3.9	16.1	(28.9)	14.8
腫瘍用薬	31.5	19.6	37.8	26.4	23.5	22.1	13.5	21.1	8.9	22.4	21.8	26.1	22.0	9.6	20.9	(44.0)	7.5
アレルギー用薬	▲10.7	2.7	▲1.5	8.9	3.8	2.3	1.4	▲3.1	7.1	3.9	7.7	12.6	3.7	3.4	4.3	(▲7.7)	3.9
漢方製剤	13.9	5.5	21.8	17.8	14.3	13.4	11.1	13.0	10.5	12.5	15.4	17.8	12.4	4.4	13.6	(19.0)	2.2
抗生物質製剤	▲12.9	▲6.3	▲19.9	▲29.5	▲26.4	▲18.9	▲19.7	▲20.6	▲16.9	▲19.2	▲17.0	▲17.1	▲21.1	▲12.6	▲20.0	(▲23.9)	1.0
化学療法剤	4.7	▲15.7	5.1	0.1	▲3.4	▲7.6	▲12.5	▲8.2	▲13.2	▲8.4	▲23.8	▲23.3	▲11.9	▲12.7	▲10.7	(▲8.6)	3.9
生物学的製剤	54.7	29.4	56.0	35.7	24.0	18.3	17.6	20.2	5.5	19.7	12.5	24.1	12.2	2.7	19.5	(58.9)	1.1



※影響度は(各薬効分類の薬剤料の増減分)÷(前期の薬剤料総数)×100で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年度4月～3月 ④後発医薬品割合（数量ベース）の推移

- 後発医薬品割合（数量ベース、新指標）は、令和3年3月時点で82.1%。
- 令和2年7月にわずかに下がっているが、後発医薬品の収載により「後発医薬品のある先発医薬品」が増えたことが要因と考えられる。



注1) 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注2) 「後発医薬品割合（数量ベース）」は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。